

24. Deutsch- Redewettbewerb für Oberschülerinnen und Oberschüler

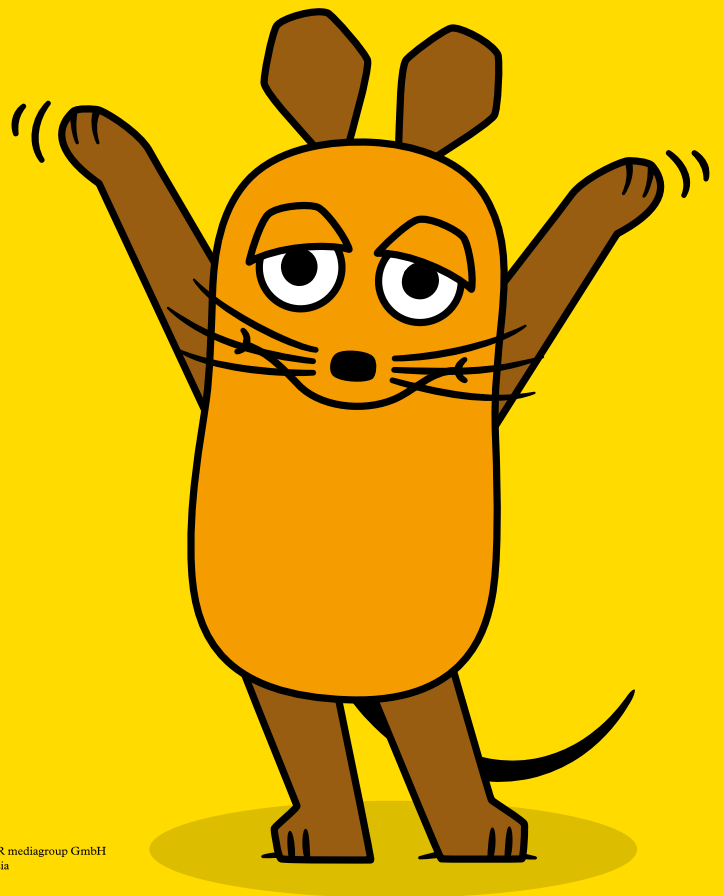
第24回 獨協大学 全国高校生 ドイツ語スピーチコンテスト

＜日時＞ 2022年10月30日(日) 12:00～

＜会場＞ 獨協大学天野貞祐記念館3階大講堂（事前申込制・無料）

＜主催＞ 獨協大学外国語学部

※新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、
対面形式で実施いたします。



＜後援団体一覧（順不同）＞

ご支援・ご協力いただきました各団体・各企業の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

■文部科学省

■株式会社朝日出版社

■ドイツ連邦共和国大使館

■株式会社郁文堂



■SKWイーストアジア株式会社

■オーストリア大使館/
オーストリア文化フォーラム東京

■NHK出版

■コピーライツアジア株式会社

■在日スイス大使館

■株式会社三修社

■ゲーテ・インスティトゥート東京

■ジーストア

■在日ドイツ商工会議所

■テレ玉

■公益財団法人
ドイツ語学文学振興会

■東洋出版株式会社

■埼玉県教育委員会

■株式会社同学社

■草加市教育委員会

■一般社団法人獨協大学同窓会

■高等学校ドイツ語教育研究会

■株式会社白水社

■カシオ計算機株式会社

2022年度 第24回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト プログラム

11:45	開場
12:00	開会 出場者紹介 主催者挨拶 審査員紹介
12:15～13:15	第1部 朗読部門
13:15～13:25	休憩
13:25～14:15	第2部 プレゼンテーション部門
14:15～14:25	休憩
14:25～15:25	第3部 フリースピーチ部門
15:25	在学生によるキャンパス案内(予定)
16:10	審査結果発表・表彰式 審査講評
16:50	閉会 記念撮影

※ 時間は目安です。状況により前後いたします。

※ 発表中の扉開閉・入退室は、ご遠慮ください。

※ 会場内でスタッフが写真・ビデオ撮影を行います。獨協大学ホームページ等の
広報媒体に写真や映像を掲載することがございますので、予めご了承ください。

※ 記念撮影後、出場者の皆様を対象に懇親会(飲食なし)を開催予定です。

「ドイツ語スピーチコンテスト」2022 に寄せて

獨協大学外国語学部長 渡部 重美

「第24回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」を開催するにあたり、主催者である獨協大学外国語学部を代表してご挨拶申し上げます。

今回のコンテストには、日本国内だけでなくイギリスの高校も含めた40の高校から、延べ188名のご応募がありました。新型コロナウイルスによる感染症の状況が依然として収束の気配を見せないなかで、一生懸命に準備をしてコンテストに参加してくださったみなさんに、まずは心より敬意を表します。さらに、みなさんを支えてくださったご家族、ご指導いただいた先生方、ご後援いただきました関係諸機関・諸団体のみな様にもこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回、第1部には160名のエントリーがあり激戦となったこと、第2部では独創的な工夫を凝らしたプレゼンが目立ったこと、第3部では現代社会が抱える様々な問題について自らの経験に基づいた論旨明快な考察が多く見られたことなど、予選の段階からとてもレベルの高いコンテストになっていると、審査にあたった教員から報告を受けております。

ところで、今回は久しぶりに本学キャンパスで本選を開催することになりました。感染拡大防止の観点からいろいろと制約はありますが、直接みなさんにお会いしてパフォーマンスを拝見できることをとてもうれしく思い、また、楽しみにしております。ドイツと関係の深い本学キャンパスで、ドイツ語を熱心に学ぶみなさんがお互いに刺激し合い、交流を深めていただければ幸いです。

どうか、日頃の練習の成果を存分に発揮してください。みなさんにとって素敵な、思い出に残るコンテストとなることを願っております。

獨協大学外国語学部ドイツ語学科長 青山 愛香

「第24回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」にご参加下さいまして、ありがとうございます。コロナが第7波を迎え、学校生活でも色々な制限があった中で本選に進まれたみなさん、ご出場おめでとうございます！またご多忙の中、指導に貴重な時間を割いて下さった先生方に、改めてこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。残念ながら今回は本選出場が叶わなかったみなさんも、今回の応募を機にさらにドイツ語に磨きをかけて下さい。

去年はスピーチコンテストを初めてオンラインで開催致しました。今年は三年ぶりに天野貞祐記念館大講堂を会場に、対面でスピーチコンテストを開催致します。我々教職員も、皆さんと会場でお目にかかることを楽しみにしています。またこのドイツ語スピーチコンテストの場が、皆さんに新しい出会いをもたらすことを心から願っております。

最後になりましたが、今回の大会開催にあたりご協力を頂きましたゲーテ・インスティトゥート、後援企業の皆様、そして様々な形でご支援ご協力下さいました関係機関の方々に、心より感謝申し上げます。

＜審査員紹介＞

ドイツ連邦共和国大使館

ゲーテ・インスティトゥート東京 語学部長／所長代理 Oliver Phan-Mueller 様

高等学校ドイツ語教育研究会 副会長 池谷 尚美 様

獨協大学外国語学部ドイツ語学科 David FUJISAWA 専任講師

獨協大学外国語学部ドイツ語学科長
第24回ドイツ語スピーチコンテスト審査員長 青山 愛香 教授

第24回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト応募数

第1部：160名 第2部：13名 第3部：15名 総計：188名（40校）

都道府県	高校名	第1～3部 応募数	都道府県	高校名	第1～3部 応募数
北海道	札幌静修高等学校	16	東京都	学習院女子高等科	1
岩手県	花巻南高等学校	6		慶應義塾女子高等学校	24
	不来方高等学校	7		国際基督教大学高等学校	2
茨城県	茗溪学園高等学校	1		国際高等学校	2
埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	1		三田国際学園高等学校	1
	さいたま市立浦和南高等学校	2		成城学園高等学校	1
	伊奈学園総合高等学校	32		早稲田大学高等学院	1
	慶應義塾志木高等学校	1		筑波大学附属高等学校	1
	草加南高等学校	1		東京学芸大学附属国際中等教育学校	1
	大妻嵐山高等学校	1		北園高等学校	2
	蕨高等学校	1		獨協高等学校	1
	獨協埼玉高等学校	37	長野県	長野西高等学校	3
神奈川県	横浜国際高等学校	2	奈良県	東大寺学園高等学校	1
	慶應義塾湘南藤沢高等部	22	大阪府	関西学院大阪インターナショナルスクール	1
	公文国際学園高等学校	2	京都府	同志社国際高等学校	2
	神奈川総合高等学校	3	兵庫県	芦屋国際中等教育学校	1
	中央大学附属横浜高等学校	1	熊本県	水俣高等学校	1
	法政大学国際高等学校	1	佐賀県	鳥栖高等学校	1
千葉県	芝浦工業大学柏高等学校	1	長崎県	聖和女子学院高等学校	1
	千葉市立稲毛高等学校	1	イギリス	St Paul's Girls' School	1

第24回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト 本選出場者選抜一覧

第1部(10名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	東京都	国立	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2	井上 桜来	Inoue Sara
2	神奈川県	私立	慶應義塾湘南藤沢高等部	3	朝岡 巧成	Asaoka Kosei
3	神奈川県	県立	神奈川総合高等学校	3	田邊 梨瑠葉	Tanabe Riruha
4	埼玉県	市立	さいたま市立浦和高等学校	1	石川 李桜	Ishikawa Rio
5	東京都	私立	学習院女子高等科	2	藤波 花怜	Fujinami Karen
6	東京都	私立	慶應義塾女子高等学校	3	池田 凜乃	Ikeda Rino
7	東京都	都立	北園高等学校	2	福本 啓太	Fukumoto Keita
8	東京都	都立	国際高等学校	3	西島 凜斗	Nishijima Rito
9	熊本県	県立	水俣高等学校	3	齊藤 美咲姫	Saito Misaki
10	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	2	中村 百合愛	Nakamura Riria

第2部(7名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	イギリス	私立	St Paul's Girls' School	1	小堀 真由	Kobori Mayu
2	岩手県	県立	不来方高等学校	3	中村 深優	Nakamura Miyu
3	奈良県	私立	東大寺学園高等学校	1	小河原 優輝	Ogawara Yuki
4	神奈川県	県立	横浜国際高等学校	2	弘茂 由子	Hiroshige Yuko
5	神奈川県	県立	横浜国際高等学校	2	佐藤 怜雄	Sato Leo
6	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	熊谷 恒世	Kumagai Kousei
7	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	橋本 美紅	Hashimoto Miku

第3部(5名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	東京都	私立	国際基督教大学高等学校	1	中村 もあな	Nakamura Moana
2	東京都	私立	国際基督教大学高等学校	3	細江 優里	Hosoe Yuri
3	東京都	私立	成城学園高等学校	2	サーラ 仁菜	Saaler Nina
4	埼玉県	私立	慶應義塾志木高等学校	3	松島 蓮汰郎	Matsushima Rentaro
5	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	高橋 紗彩	Takahashi Saaya

第 24 回 獨協大学 全国高校生 ドイツ語スピーチコンテスト 予選講評

第 24 回 獨協大学 全国高校生 ドイツ語スピーチコンテストにたくさんのご応募をいただき、まことにありがとうございました。今回の応募者数は、第 1 部 160 名、第 2 部 13 名、第 3 部 15 名、延べ 188 名となりました。このように多数の応募があったことをたいへん嬉しく思います。新型コロナウイルスの感染拡大により、いまなお生活がさまざまな制約を受ける中、今回のスピーチコンテストはドイツ語を学ぶ高校生にとって、授業以外の時間にドイツ語を練習する貴重な機会となることと思います。

第 24 回 獨協大学 全国高校生 ドイツ語スピーチコンテストは、全 3 部で構成されます。第 1 部の朗読部門は、3 種の課題テキスト、または応募者がみずから自由に選んだテキストを、朗読という形で表現するものです。以前実施していた対話形式での朗読部門については、感染予防の観点から今年度も引き続き休止しております。昨年度より新設された第 2 部のプレゼンテーション部門においては、高校生にとって身近なトピックについて、パワーポイントなどの視覚的なツールを活用しながら発表していただきます。第 3 部のフリースピーチ部門は、社会的なテーマについて独自の見解を述べるものです。

第 1 部においては、ドイツ語の発音の正確さに加えて、テキストの内容を深く理解した上での表現力が試されることとなります。今回も昨年度に引き続き応募者数がたいへん多く、激戦となりましたが、表現の面で工夫をこらしたものが多く見られました。第 2 部のプレゼンテーション部門では、今回は「私の夢の旅」というテーマを設定しましたが、主催者がこのテーマに対してもっていた期待をよい意味で裏切る独創的な作品が目立ちました。第 3 部のフリースピーチ部門には、現在の激動する社会情勢に敏感に反応するフレッシュな作品が揃いました。

このようにバリエーションに富み、個性豊かな数々の作品を一定数に絞り込むのは、われわれ予選審査員にとって非常に難しい作業でした。そのため、今回も想定していたよりも多くの作品を本選に選出することとなりました。

われわれ審査員は、すべての応募者の皆さんの勇気を祝福し、その努力に大きな敬意を表します。この講評が皆さんのさらなる成長に寄与することができれば幸いです。また、皆さんがこれからも楽しくドイツ語を学ばれ、実り多い高校生活を過ごされることを願っております。

※ 残念ながら、録音状態が万全でないものが散見されました。今後ご応募の際には、雑音の有無、録音レベルなどについて十分ご確認くださいようお願い申し上げます。

第 1 部（朗読部門）

第 1 部の課題テキストは、ロベルト・ゲルンハルト（1937-2006）の「芸術とは」、ヘルマン・ヘッセ（1877-1962）の「階段」、ハインリッヒ・ベル（1917-1985）の「働く者のやる気をそぐ話」（抜粋）の 3 作です。応募者自身が選んだテキストには、ハインリッヒ・ハイネ（1797-1956）の「歌の翼に」などがありました。

応募者にもっとも人気があったのが「芸術とは」です。聴衆に向かって語りかける講演者の言葉という珍しい形式を採った詩ですが、口語体で書かれ、語彙も比較的平易と言えます。ドイツ語学習の過程ですでに出会った表現も多く含まれていたのではないのでしょうか。そうした表現を哲学的な問答のような詩のうちに味わうことができるのもドイツ語を学ぶ醍醐味です。とはいえ „etwas am Hut haben“ や „auf den Wecker fallen“ などのやや難解な慣用表現も含まれますし、全体的に皮肉が効いて、複雑なニュアンスを含むテキストです。各節でおおむね二行ずつ韻を踏んでいることは、把握しやすかったことと思います。テキスト全体では中盤に明らかな山場があり、畳み掛けるような表現になっていますので、そこへ向けて盛り上げてゆき、終盤は穏やかな調子をもってゆくのが基本的な解釈となるでしょう。「芸術」を称揚する言葉を重ねた後、すべて嘘だとひっくり返し、さらに最後の節で「信じても差し支えない」ともう一度戻すわけですが、最後の節をどう解するかで、全体の解釈が大きく変わってきます。応募者の中でも解釈が割れている様子だったのは興味深いことでした。

「階段」は皆さんのような若者に、勇気を持って未知の世界へ歩み出すことを促す、淡々としながらも力強いテキストです。難しい語彙や、主文と副文から成る長い文の構造が多く見られ、言語的には三つのテキストの中で最も難解です。自由詩の形式で書かれており、リズムは自分で作り出さなければなりません。押韻の箇所が各節で異なりますので、節ごとに個別にリズムを整える必要があります。

ユーモアあふれる寓話「働く者のやる気をそぐ話」は、比較的平易な語彙で書かれており、日常的な表現が多く使われています。取り組みやすい反面、緩急の付け方などはかえって難しいテキストかもしれません。飄々とした調子の語り手に加えて、性急で押し付けがましい観光客、悠々とわが道をゆく漁師という対照的な二人の人物が登場するため、演技力が試されるテキストです。三役の声を使い分け、その人物の性格や雰囲気話し方で表現することで、魅力的なパフォーマンスを実現できるでしょう。

こうした表現の前提として、ドイツ語の発音が正確であるかどうかのもろ重要な評価ポイントとなります。すべての応募者にお送りする「第 1 部予選審査用紙」には、各自が取り組むべき個々の音についてのフィードバックが記載されています。先生や教科書の助けを借りるだけでなく、インターネットでも調べてみましょう。専門的なウェブサイトとしては Sounds of Speech (<https://soundsofspeech.uiowa.edu/german>) などが有用ですが、獨協大学でも日本の学生のために発音練習用のウェブサイト (<http://phonetik.sakura.ne.jp>) を制作していますので、ぜひ参考にしてください。

第2部（プレゼンテーション部門）

第2部の今年の課題は「私の夢の旅」で、将来実現したい旅についていかに想像力豊かに、創造的に語ることができるかを問うものでした。少なくない応募者が、旅のプランの詳細に重きを置くというよりは、むしろその場所に抱く思いやその理由について多くを語っていたのは興味深いことでした。さまざまな国に移り住んできたこれまでの自分の歩み、部活で打ち込んできたスポーツ、学校で学んだ環境問題など、「旅」という一語にくくることが難しい多様な物語がありました。過去への旅を夢見る人あり、映画として旅を構成する人あり、クイズを取り入れる人あり、独創的な工夫をこらした作品も目立ちました。プレゼンテーションでは通常、序論と結論を備えた論理的な構成が高く評価されますが、今回の課題に関しては、それとはやや方向性を異にする、文学的・演劇的な構成の作品についても相応に高く評価をしています。

ドイツ語表現については、第二部では洗練されていることや高度であることが求められているわけでは必ずしもなく、これまでのドイツ語学習で習得した日常的な語彙や基礎的な文法を駆使して自己表現できる力が期待されています。

本選に向けては発音を鍛えることが重要になります。一文の中でのアクセント、リズムの滑らかさ、間の取り方、そしてもちろん個々の音の発音といったことです。表情やジェスチャーで表現を豊かにすること、さらにはパワーポイントなどの視覚的ツールのデザインや活用方法も重要になります。完成された総合的なパフォーマンスをステージ上で鑑賞できることを、たいへん楽しみにしています。

第3部（フリースピーチ部門）

社会的な問題を扱う第3部の応募作品は、例年と同様、高い水準にありました。テーマは、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて戦争あるいは平和について思索する作品が複数あったほか、ジェンダーとセクシュアリティ、環境問題、教育、医療、音楽、ファッションなど、多岐にわたりました。

多くの応募者が自分自身の経験に基づき、明快な論旨で論述を行っていました。審査員が重視した点は、提示する問題を一方的に検討することに留まらず、問題の解決に向けて明確な方向性を示したり、問題を多様な視点から照らし出したりしているかどうかです。あるいは、自身の主張を裏付けるのに適した事実が選ばれているか、それが信頼できるソースから採られているか、適切に引用されているかといったことも、説得力に影響します。自身の意見が明確に述べられていなかったり、論拠が示されていなかったり、事実の羅列に終わっていたりする作品は、独自性が十分でないといわれます。社会的な視点を含まず、個人的な問題に終始している場合は、たとえ言語的に優れていても評価は限定的になります。明確な構成をもち、各部分が相互に関連し合い、全体として「まとまりのある」印象を与える作品が、本選に相応しいものと評価されます。

言語的な構成に関しては、ネイティブチェックは文法的な誤りに限定されるべきである点をいま一度確認したいと思います。ネイティブスピーカーが手を入れていないとわかるテキストが、その点によって不利になることはありません。例年どおり、自身がもっている言語的な手段を可能な限り駆使して、自分の考えを相手に伝えられる文章を自ら書くことを推奨したいと思います。

予選を突破したスピーチがステージ上でどのようなインパクトを与えてくれるのか、その後の質疑応答も含めてたいへん楽しみです。

P12～P17 第 1 部課題テキスト
P18～P31 第 2 部発表原稿
P32～P42 第 3 部発表原稿

Was ist Kunst

Robert Gernhardt*

Hab'n Sie was mit Kunst am Hut?
Gut.

Denn ich möchte Ihnen allen
etwas auf den Wecker fallen.

Kunst ist was?

Das:

Kunst, das meint vor allen Dingen
andren Menschen Freude bringen
und aus vollen Schöpferhänden
Spaß bereiten, Frohsinn spenden,

denn die Kunst ist eins und zwar
heiter. Und sonst gar nichts. Klar?

Ob das klar ist? Sie ist heiter!
Heiter und sonst gar nichts weiter!
Heiter ist sie! Wird es bald?
Heiter! Hab'n Sie das geschnallt?

Ja? Dann folgt das Resümee;
bitte sehr:

Obenstehendes ist zwar
alles Lüge, gar nicht wahr,
und ich meinte es auch bloß
irgendwie als Denkanstoß –

aber wenn es jemand glaubt:
ist erlaubt.
Mag ja sein, dass wer das mag.
Guten Tag.

* 朗読の際は、作家の名前は読まなくて結構です。

芸術とは

ロベルト・ゲルンハルト

芸術に興味がおありですか？

わかりました

では少しばかり みなさんの

お気に障るような話をしましょう

芸術とはなにか？

答えはこうです

芸術 それはなによりも

他者に歓びをもたらすもの

創造者の手からあふれる

楽しみを届けるもの 陽気にさせるもの

なぜなら芸術はただ明るいもので

それ以外のものではないから おわかりですか？

おわかりかどうか？ 明るいのですよ！

明るさ以外のものではないのです！

明るさです！ もう少しでわかります？

明るさ！ わかりましたね？

よろしいですか？ それではまとめに入ります

さあどうぞ

いまのはすべて嘘なんです

真実など なにひとつない

考えるきっかけのようなものとして

ただ言ってみただけです

でももしそれを信じる人がいるなら

信じることは自由です

ひょっとして 気に入る人もいるかもしれませんね

ごきげんよう

Stufen

Hermann Hesse*

Wie jede Blüte welkt und jede Jugend
Dem Alter weicht, blüht jede Lebensstufe,
Blüht jede Weisheit auch und jede Tugend
Zu ihrer Zeit und darf nicht ewig dauern.

Es muss das Herz bei jedem Lebensrufe
Bereit zum Abschied sein und Neubeginne,
Um sich in Tapferkeit und ohne Trauern
in andre, neue Bindungen zu geben.

Und jedem Anfang wohnt ein Zauber inne,
Der uns beschützt und der uns hilft zu leben.

Wir sollen heiter Raum um Raum durchschreiten,
An keinem wie an einer Heimat hängen,
Der Weltgeist will nicht fesseln uns und engen,
Er will uns Stuf' um Stufe heben, weiten.

Kaum sind wir heimisch einem Lebenskreise
Und traulich eingewohnt, so droht Erschlaffen,
Nur wer bereit zu Aufbruch ist und Reise,
Mag lähmender Gewöhnung sich entrafen.

Es wird vielleicht auch noch die Todesstunde
Uns neuen Räumen jung entgegensenden,
Des Lebens Ruf an uns wird niemals enden ...
Wohlan denn, Herz, nimm Abschied und gesunde!

* 朗読の際は、作家の名前は読まなくて結構です。

階段

ヘルマン・ヘッセ

花がしおれ 若者が老いに屈するように
人生の段階も 知恵も 美徳も
それぞれに花開くときがあり
永遠に続きはしない

生の呼び声を聞くたびに
心は別れと新たな出発とに 備えねばならない
勇ましく 嘆くことなく
別の新たな結びつきへと 飛びこむために

そしてあらゆる始まりには 魔法が備わる
わたしたちを護り 生きていく助けとなる魔法が

朗らかに さまざまな場所を通り抜けねばならない
故郷に対するような執着は どこにももってはならない
世界の精神はわたしたちを縛りつけ 締めつけようとはしない
一段一段 引き上げ 広げようとする

自分の生活圏で心地よく過ごし
その心地よさに慣れてしまうと すぐに弛緩が迫ってくる
出発と旅の覚悟がある者のみが
麻痺してしまった慣れから 身を引き剥がすことができる

臨終の時もまた わたしたちを
新しい場所へと 初々しく送り込むのかもしれない
生の呼び声は 途切れることがない
さあ心よ 別れを告げ 健やかになれ

Anekdote zur Senkung der Arbeitsmoral

Heinrich Böll*

In einem Hafen an einer westlichen Küste Europas liegt ein ärmlich gekleideter Mann in seinem Fischerboot und döst. Ein schick angezogener Tourist legt eben einen neuen Farbfilm in seinen Fotoapparat, um das idyllische Bild zu fotografieren: blauer Himmel, grüne See (...), schwarzes Boot, rote Fischermütze. Klick. Noch einmal: klick. Und da aller guten Dinge drei sind und sicher sicher ist, ein drittes Mal: klick. (...)

„Sie werden heute einen guten Fang machen.“ Kopfschütteln des Fischers. „Aber man hat mir gesagt, dass das Wetter günstig ist.“ Kopfnicken des Fischers. (...) „Aber warum fahren Sie dann nicht aus?“ Die Antwort kommt prompt und knapp. „Weil ich heute morgen schon ausgefahren bin.“ (...)

„Aber stellen Sie sich mal vor, (...) Sie würden (...) nicht nur heute, sondern morgen, übermorgen, ja, an jedem günstigen Tag zwei-, dreimal, vielleicht viermal ausfahren – wissen Sie, was geschehen würde?“
Der Fischer schüttelt den Kopf.

„Sie würden sich spätestens in einem Jahr einen Motor kaufen können, in zwei Jahren ein zweites Boot (...) haben. (...) Sie würden ein kleines Kühlhaus bauen, (...) später eine Marinadenfabrik, mit einem eigenen Hubschrauber rundfliegen, die Fischschwärme ausmachen und Ihren Kuttern per Funk Anweisungen geben (...) Und dann ...“ (...)

„Dann (...) könnten Sie beruhigt hier im Hafen sitzen, in der Sonne dösen – und auf das herrliche Meer blicken.“

„Aber das tu’ ich ja schon jetzt“, sagt der Fischer, „ich sitze beruhigt am Hafen und döse, nur Ihr Klicken hat mich dabei gestört.“
(...)

* 朗読の際は、作家の名前は読まなくて結構です。

働く者のやる気をそぐ話

ハインリッヒ・ベル

ヨーロッパ西海岸のある港。みずぼらしい身なりの男が漁船に横たわり、居眠りをしている。折りしもシックな服装の観光客が、新しいカラーフィルムをカメラに入れる。その絵になる風景を撮影するために。青い空、緑の海、黒い船、赤い漁師帽。カシャ。もう一枚。カシャ。良いものはみな三つだから、念には念を入れて、三回目。カシャ。

「今日はよく釣れそうですね？」漁師は首を振る。「でも、ちょうどいい天気だと聞きましたよ？」漁師はうなずく。「じゃ、なぜ漁に出ないんです？」素早く、素っ気ない答え。「今朝、もう出たからな」

「でも考えてもごらんなさい。もし今日だけでなく、明日も明後日も、そう、天候がいい日には日に二度、三度、四度と漁に出るとしたら？ 何が起こると思います？」

漁師は首を振る。

「遅くとも一年後にはモーターを買えるでしょう。二年後には二隻目の船をもてるでしょう。小さな冷蔵倉庫を建て、それから加工工場を建て、自分のヘリコプターで飛び回り、魚の群れを見つけて無線であなたの船に指示を出す。そうすれば—」

「そうすれば、この港でゆっくり座って、日向ぼっこをしながらうたた寝をして、雄大な海を眺めていられますよ」

「だがもう、そうしてるからな」漁師は言う。「港のそばでゆっくり座って、うたた寝をしてるさ。あんたのカメラの音に邪魔されただけでな」

Liebes Perth, diesmal warte auf mich.

Mayu Kobori
St Paul's Girls' School

Der strahlende Sonnenschein. Die Musik der leuchtenden Wellen. Perth ist die Stadt, in der die Natur auf die Urbanisierung trifft, in der man sowohl Sandstrände als auch hohe Wolkenkratzer finden kann. Die Hauptstadt von Westaustralien ist mein ideales Reiseziel.

Ich bin in Hongkong geboren und in Hongkong, Paris, Tokio und London aufgewachsen – vier der modernsten Städte der Welt. Ich bin damit aufgewachsen, sowohl das Stadtleben als auch die Natur zu lieben, und Perth ist ideal, weil es sowohl modern als auch voller Natur ist.

Perth ist das Ziel der Flitterwochen meiner Eltern, und seit ich klein war, habe ich immer Geschichten über die schönen Strände, die wilde Wüste und die freundlichen Einheimischen gehört. Mein Traum wäre es, mit meinen Eltern nach Perth zu reisen und dort die wunderschöne Landschaft, die multikulturelle Szene, die Kunst und die Festivals zu erkunden.

Zuerst: wo liegt Perth? Perth ist die Hauptstadt und die größte Stadt von Westaustralien und liegt an der Küste des Indischen Ozeans. Perth ist für seine Strände bekannt, und es gibt neunzehn in der Nähe der Stadt.

Perth wurde 1829 von Kapitän James Stirling aus England gegründet, als die Swan River Colony eingerichtet wurde.

In Perth scheint die Sonne im Durchschnitt acht Stunden pro Tag. Damit ist Perth die Stadt mit den meisten Sonnenstunden der Welt und ist bekannt als die „Stadt der Lichter“.

Das Essen in Perth ist ein weiterer Grund, warum es meine Traumurlaubsstadt ist. Vor allem würde ich gerne die berühmten Felsenhummer, die Fleischpastete und den Nachtisch Pavlova essen.

Perth schützt auch die Tierwelt, und es gibt viele schöne Arten wie Quokkas, Kängurus, Koalas und australische Seelöwen. Die Umwelt und die Tierwelt werden in Perth sehr geschätzt. Ich glaube, dass die Reise nach Perth eine tolle Gelegenheit sein wird, etwas über Nachhaltigkeit und gefährdete Arten zu lernen.

Perth ist sehr multikulturell. In Perth leben Menschen mit mehr als 200 verschiedenen Nationalitäten, die mehr als 170 Sprachen sprechen. Egal, woher Sie kommen, Sie werden sich immer willkommen fühlen. Da ich mit einem multikulturellen Hintergrund aufgewachsen bin, liebe ich es, verschiedene Kulturen zu erkunden und Sprachen zu lernen. Ich glaube, Perth wird mich dazu inspirieren, mehr Sprachen zu lernen.

Ich habe eine große Leidenschaft für die Kunst. In Perth gibt es viele Museen und Kunstgalerien, in denen man etwas über Kunstgeschichte lernen kann.

Es gibt auch viele Festivals in Perth. Beim Frost- und Feuerfest feiern die Einheimischen die Wintersonnenwende mit Musik und Feuerspielen. Außerdem gibt es Pride-Paraden und Lichterfeste. Touristen können sich mit den Einheimischen treffen und das ganze Jahr über an spannenden Festen teilnehmen.

Sobald ich aus dem Flugzeug steige, werde ich von dem blauen Himmel, den grünen Bäumen und den freundlichen Einheimischen begrüßt. Also, was hindert mich daran, meinen Traum zu erleben? Gar nichts. Ich kann fast schon das ruhige und doch aufregende Rauschen der australischen Wellen hören. Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit.

親愛なるパース、今度は私を待っていてね。

St Paul's Girls' School (イギリス)
1年 小堀 真由

晴れやかな日差し。光り輝く波の音楽。パースは、砂浜と高層ビルの両方がある、自然と都市化が融合した都市です。この西オーストラリア州の州都が、私の理想とする旅行先です。

私は香港で生まれ、香港、パリ、東京、ロンドンという、世界で最もモダンな 4 つの都市で育ちました。私は小さい頃から都会の生活と自然の両方が好きだったので、私にとって近代的でありながら自然がいっぱいであるパースは、最も理想的な場所だと思います。

パースは両親の新婚旅行先で、小さい頃から美しいビーチや野生の砂漠、フレンドリーな地元の人たちの話をよく聞いていました。私の夢は、両親と一緒にパースに行き、美しい景色、多文化の風景、芸術、そしてお祭りを楽しむことです。

まず、パースはどこにあるのでしょうか。パースは西オーストラリア州の州都で、インド洋沿岸に位置する最大の都市です。パースはビーチの街として知られており、街の近くには 19 のビーチがあります。

パースは、1829 年にイギリスのジェームズ・スターリング船長によって、スワンリバー植民地が設立されたときに誕生しました。

パースでは、1 日平均 8 時間、太陽が輝いています。そのため、パースは世界で最も日照時間が長い都市であり、「光の都市」とも呼ばれています。

パースの食事もまた、パースが私の夢の休暇の場所である理由のひとつです。特に、有名なロックロブスター、ミートパイ、そしてデザートのパブロバはぜひ食べてみたいです。

また、パースでは野生動物も保護されており、クオッカ、カンガルー、コアラ、オーストラリア・アシカなど、美しい動物たちが数多く生息しています。パースでは、環境と野生生物が愛され、守り続けられています。パースへの旅は、持続可能性や絶滅危惧種について学ぶ良い機会になると思います。

パースはとても多文化的な街です。パースには 200 を超える国籍の人々が住んでおり、170 を超える言語を話しています。どこの国から来ても、歓迎されるような場所です。私は多文化な環境で育ったので、異文化を探究し、言語を学ぶことが好きです。パースは、私がもっと多くの言語を学ぶきっかけになると思います。

私は芸術に対して大きな情熱を持っています。パースには、美術史を学べる博物館や美術館がたくさんあります。

また、パースでは多くのフェスティバルが開催されています。「霜と火の祭典」では、地元の人々が音楽と火遊びで冬至を祝います。また、プライドパレードや光の祭典も開催されます。観光客は年間を通して地元の人々と触れ合い、楽しいフェスティバルに参加することができます。

私は、飛行機を降りたとたん、青い空、緑の木々、そしてフレンドリーな地元の人たちが出迎えてくれる瞬間が想像できます。では、何が私の夢の実現を阻んでいるのでしょうか？ 全くありません。オーストラリアの穏やかながらも刺激的な波の音が聞こえてきそうです。ご清聴ありがとうございました。

【本人和訳】

Meine Traumreise für unser Field-Hockey-Team einmal um die Welt

**Miyu Nakamura
Kozukata High School**

Ich heiße Miyu, bin 18 Jahre alt und gehe auf die Kozukata Oberschule in Tohoku. Ich spiele leidenschaftlich gern Field Hockey und trainiere im Hockey-Club meiner Schule. Eine Olympiateilnehmerin im Hockey hat hier ihren Schulabschluss gemacht. Wegen des Club-Trainings interessieren mich die starken Hockey-Damen-Mannschaften dieser Welt. Auf einer großen Reise möchte ich die besten Spielerinnen verschiedener Länder kennenlernen und für ein Trainingsspiel nach Japan, an die Kozukata-Oberschule, mitnehmen.

Was ist Field Hockey? Wisst ihr das? Ich erkläre es kurz: Elf Spieler in zwei Teams spielen mit Ball und Schläger auf das gegnerische Tor. Diese Sportart kommt von Cricket, aus dem England im Jahr 1887. Seit 1908 ist es olympische Disziplin.

Nun zu meiner Reise: Vom Iwate-Airport Hanamaki fliege ich über Tokio nach Belgien. Dann mit dem Schiff nach England, dem Mutterland des Field Hockeys. Von London-Heathrow geht es weiter nach Südamerika, Argentinien. Und zuletzt, zuletzt möchte ich nach Deutschland.

Von Brüssel aus besuche ich gleich das WM-Gewinner-Team von Delfina Merino. Sie war die beste Spielerin 2018. Ich überrede sie für mein Team. Weiter nach London. Das ist der Buckingham Palace, der Big Ben und – die beste Torhüterin der Welt: Maddie Hinch. Die Olympiade in Rio hat England mit ihr gewonnen. Holà! Argentinien ist der Tango Argentino und die erfolgreichste Newcomerin des Jahres: Mariá José Granatto. Ihre einzigartige Dribbeltechnik braucht unser Team.

Meine Reise kommt ans Ende. In Berlin treffe ich unter dem Brandenburger Tor Janne Müller-Wieland. Das Profi-Team von Hiroshima hat sie bereits wegen ihrer Leistungen eingeladen. Sie ist *die* Managerin für das Kozukata-Team. Seit zwei Jahren lerne ich an meiner Schule fleißig Deutsch. Ich möchte sie mit meinen Deutsch-Kenntnissen umgarnen.

Nun geht es zurück: Nach Iwate, in meine Heimat. Mit unseren neuen Team-Mitgliedern. Wir sind jetzt die internationale Mannschaft der Kozukata High! Und trainieren auf dem Numakunai-Hockey-Field zusammen für den World Cup.

Auf meiner Traumreise habe ich viel besichtigt und bekannte Hockey-Spielerinnen kennengelernt. Mit meinen Reisegefährtinnen möchte ich den Charme des Hockey-Spiels noch mehr in meine Heimat tragen. Ich hoffe, die Reise hat Euch gefallen. Vielen Dank für Euer Zuhören.

私の夢の旅 ～不來方ホッケー世界ーを目指して世界一周～

不來方高等学校（岩手県）
3年 中村 深優

私の名前は深優です。18歳で東北の不來方高校に通っています。私はフィールドホッケー部に所属し練習に一生懸命に取り組んでいます。ホッケーのオリンピック選手がこの高校を卒業しました。部活での練習を通して、私は世界の女子ホッケーチームに興味を持ちました。この大きな旅で様々な国の選手たちと知り合い、練習試合をするために日本に、不來方高校に連れて帰りたいです。

フィールドホッケーとは何か？ あなたたちは知っていますか？ 簡単に説明します。2つのチームそれぞれ11人の選手が、相手のゴールに向かってボールとスティックを使ってプレーします。このスポーツは1887年にイギリスで生まれたクリケットに由来しています。そして1908年以来オリンピック種目となっています。

さて、私の旅についてです。岩手の花巻空港から東京経由でベルギーへ。その後、船でフィールドホッケーの祖国であるイギリスへ。ロンドン・ヒースロー空港から南米、アルゼンチンへ向かいます。そして最後に、ドイツに行きたいです。

ブリュッセルからデルフィナ・メリノ選手が所属するワールドカップ優勝チームを訪ねます。彼女は2018年の年間最優秀選手でした。私は私のチームに入るよう彼女を説得します。そしてロンドンへ続きます。これがバッキンガム宮殿、ビッグベン、そして世界最高のゴールキーパー、マディ・ヒンチです。彼女はイングランド代表をリオ五輪で優勝に導きました。オラ！ アルゼンチンはアルゼンチン・タンゴと、今年の最も成功した新人、マリア・ホセ・グラナートです。私たちのチームは彼女の卓越したドリブル技術を求め、チームに引き入れます。

私の旅は終わりに近づいています。ベルリンでヤヌ・ミュラー＝ヴィーランドとブランデンブルク門の下で会います。その功績から広島のプロチームにスカウトされ、プレーしていたこともあります。彼女には不來方チームの監督となってもらいます。2年間、私は学校で熱心にドイツ語を学んできました。私のドイツ語で彼らをチームに引き入れたいです。

さあ、岩手へ、故郷へ帰る時が来ました。私たちの新しいチームメンバーと一緒に。私たちは今、不來方高校インターナショナルチームです！ そして、ワールドカップのために沼宮内ホッケー場で一緒に練習をします。

私の夢の旅で、私はたくさんの国を訪問し、有名なホッケー選手と知り合いになりました。旅の仲間たちと一緒に、ホッケーの試合の魅力をもっと広めたいです。皆さんもこの旅を楽しんでいただけたのでしたら嬉しいです。ご清聴ありがとうございました。【本人和訳】

Meine Traumreise

Yuki Ogawara
Todaiji Gakuen Oberschule

Guten Tag. Mein Name ist Yuki Ogawara. Ich bin Oberschüler an der Todaiji Oberschule. Ich lerne seit zwei Jahren Deutsch. Heute geht es in meiner Rede um meine Traumreise, die ich irgendwann machen möchte.

Zuerst: Der Zielort meiner Traumreise ist diesmal nicht in Deutschland, sondern ein Land, das auf Inseln im fernen Nordatlantik liegt – Island. Dahin wollte ich auch immer mal fahren. Natürlich möchte ich auch den deutschen Sprachraum besuchen, weil ich dort einmal Deutsch verwenden will. Aber diesmal habe ich doch Island gewählt. Weil ich ein bisschen Interesse an Geologie und Geographie habe, will ich da besonders das wunderbare Gelände sehen, das die charakteristische Natur gebildet hat.

Als Nächstes stelle ich einige Orte vor, die ich besonders besuchen möchte. Weil ich heiße Quellen mag, möchte ich zuerst die *Blaue Lagune* besuchen und dort baden. Sie ist ein geothermisches Heilbad und befindet sich in der Nähe des internationalen Flughafens Keflavík. Sie soll sehr schön sein, und sie ist das größte Frei-Thermalbad auf der Welt. Da gibt es auch gute Einrichtungen wie ein Restaurant und ein Spa. Die Temperatur soll ca. 39° sein, und da könnte man wahrscheinlich in Ruhe baden.

Danach möchte ich gerne zu vielen schönen *Fossar* gehen. Das Wort „Foss“ (Plural: Fossar) bedeutet Wasserfall auf Isländisch. Weil es große Gletscher in Island gibt, fließt dieses gewaltige Wasser durch diese *Fossar*. Und ich möchte zum Beispiel besonders den riesigen Wasserfall *Gullfoss* einmal sehen. Die Höhe ist 32 m und die Breite 229 m, also beträgt seine Wasserführung im Sommer etwa 130 m³/s! Er würde mir sicher heilig erscheinen.

Und ich würde auch gern den *Pingvellir-Nationalpark* besuchen. Er hat viele Sehenswürdigkeiten, aber das wichtigste ist, dass man dort, als großen Graben, die Grenze zwischen zwei tektonischen Platten so klar sehen kann! Das heißt *gjá* auf Isländisch. Und das ist, so wie wir in der Schule gelernt haben, ein Teil des Gipfels des *Mittelatlantischer Rückens*. Darin kann man angeblich auch schwimmen! Ich möchte irgendwann dorthin fahren, seitdem ich das Foto im Lehrbuch gesehen habe.

Ich kann leider keine weiteren Sehenswürdigkeiten mehr vorstellen, aber ich möchte auch Vulkane, Geysire usw. besuchen.

Zum Schluss: Island hat eine herrliche Natur, also gibt es dort viele schöne Landschaften, wo man sich fühlt, als ob man in einer ganz anderen Welt wäre. Außerdem würde ich dabei spüren, dass unsere blaue Erde jetzt aktiv lebt. Deshalb denke ich, dass es sicher eine großartige Erfahrung und Erinnerung sein wird, in diesem Land zu reisen. In Zukunft, wenn ich es mit eigener Fähigkeit schaffen kann, möchte ich hoffentlich nach jenem geheimnisvollen Land reisen.

私の夢の旅

東大寺学園高等学校（奈良県）
1年 小河原 優輝

こんにちは。私の名前は小河原優輝です。東大寺学園高校の高校生です。2年間ドイツ語を学んでいます。本日お話しするのは、いつかしてみたい私の夢の旅についてです。

最初に、私の夢の旅の目的地は今回ドイツではなく、遠く北大西洋に浮かぶ島国に位置する国—アイスランドです。ずっと行ってみたいと思っていました。一度ドイツ語を使ってみたいので、もちろんドイツ語圏も訪れたいのですが、今回はアイスランドを選びました。少し地学と地理学に興味があるので、そこで殊に、特徴的な自然の造り出した素晴らしい地形を見てみたいです。

次に、特に訪れてみたいスポットをいくつかご紹介したいと思います。温泉が好きなので、一つ目に「青い湖」を訪れ、そこで入浴してみたいです。それは地熱による（天然の）湯治用の温泉であり、ケフラヴィーク国際空港の近くに位置しています。とても綺麗だそうで、また世界で最も大きな露天風呂でもあります。レストランやスパなどの便利な設備もあります。湯温は39度ほどで、恐らくくつろいで入浴できるでしょう。

その後、多くの“Fossar”へ行きたいです。“Foss”（複数形：Fossar）というのは、アイスランド語で「滝」を意味する単語です。アイスランドには大きな氷河があるため、その物凄い量の水がこの“Fossar”を通して流れていくのです。そして私は、例えば Gullfoss という巨大な滝を特に一度見てみたいです。高さは32m、幅は229mにもなり、その為夏季にはその水量は毎秒130 m³ともなるのです。きっと神々しく見えることでしょう。

そして私はシングヴェリル国立公園も訪れたいです。そこには多くの見所があるのですが、中でも最も重要なのは、そこで、大きな溝として二つのプレートの境界がはっきりと見られることです！それはアイスランド語で“gjá”（いわゆるギャオ）というようです。そしてこれは、学校で習ったように、大西洋中央海嶺の頂の一部なのです。聞くところによれば泳ぎもできるようです。教科書で見た時からいつかそこに行きたいと思っていました。

残念ながらこれ以上見所をご紹介することはできませんが、火山や氷河等々も訪れたいものです。

終わりに。アイスランドは素晴らしい自然を有し、またそこには美しい風景があります。まるで、全く別の世界にいるような。また、私たちの青い地球が激しく生きていることを感ぜられもしましょう。従って、この国で旅するのはきっと素晴らしい経験と思い出になると考えます。将来、自力で為せるようになった時・・・願わくばあの神秘的な国へ旅行がしたいです。【本人和訳】

Meine Reise zum Lernen über Bürgerbeteiligung

Yuko Hiroshige

Kanagawa Prefectural Yokohama Senior High School of International Studies

Das Ziel meiner Traumreise ist Freiburg im Breisgau. Die Traumreise, die ich heute vorstelle, ist eine Reise, um zu sehen, wie die Freiburger ihre Stadt bauen.

Der Grund, warum ich nach Freiburg gehen will, hat mit meinem Schulunterricht zu tun. An meiner Schule wählen alle Schüler eines der 17 SDG-Ziele aus und sie schreiben schließlich eine Arbeit auf Japanisch und eine andere auf Englisch. Durch diese Studien habe ich die bürgernahe nachhaltige Stadtentwicklung in Freiburg kennengelernt.

Ich interessiere mich für viele Dinge in Freiburg wie Umwelterziehung, Umweltpolitik und Energiepolitik. Wir haben jetzt viele Probleme wie Umwelt, Armut und Energie. Ich glaube, anstatt darauf zu warten, dass die Regierung etwas unternimmt, muss jeder Einzelne daran denken, wie er sein Leben verbessern kann. Die Menschen in Freiburg denken und handeln bereits selbstständig. Ihre Proaktivität führt zur Lösung von Problemen und darüber hinaus.

Ich möchte Ihnen ein Beispiel geben. In den 1970er Jahren gab es den Plan zum Bau eines Kernkraftwerks in der Gemeinde Freiburg, der von der Öffentlichkeit abgelehnt wurde. Das heißt, wegen der Demonstrationen wurde das Kernkraftwerk nicht gebaut. Die Bürger haben begonnen, über die Nutzung anderer Energieformen nachzudenken. Sie haben Workshops und Treffen zum Thema Natur und Energie organisiert. Gleichzeitig haben Freiburger Unternehmen ab den 1980er Jahren die Solarenergie entwickelt. Außerdem hat die Zahl der Bürgerinitiativen zugenommen.

Ich war beeindruckt von der Einstellung der Freiburger Bürger. Und ich interessierte mich für die nachhaltige Stadtentwicklung in Bürgerhand.

Während ich Deutsch lerne und meine Studien vertiefe, werden meine Träume immer größer und größer. Ich würde gerne andere Gemeinden besuchen, z. B. das energieautarke Dorf Wildpoldsried in Südbayern, oder Güssing im Südosten Österreichs, wo erneuerbare Energie vor Ort für den lokalen Verbrauch erzeugt wird usw. Um diesen Traum zu verwirklichen, sind gute Deutschkenntnisse und die Fähigkeit zu recherchieren wichtig. Bis ich diese Voraussetzungen habe, wird es noch viele Jahre dauern. Aber wenn ich bedenke, dass der Traum wahr werden kann, werde ich die Vorbereitung darauf jeden Tag genießen. Ich glaube, dass meine Erfahrungen auf diesen Reisen zu neuen Entdeckungen führen, die mir helfen werden, mich weiterzuentwickeln und in Zukunft positive Maßnahmen zu sozialen Fragen vorschlagen zu können.

市民参加型社会を学ぶ旅

横浜国際高等学校（神奈川県）
2年 弘茂 由子

私の夢の旅の目的地はフライブルク・イム・ブライスガウです。今日私が紹介する夢の旅は、フライブルク市民による町づくりを見に行く旅です。

私がフライブルクに行きたいと思うようになったきっかけは学校での授業です。私の学校では、生徒全員が SDGs の 17 個の目標から一つを選んで日本語と英語で論文を書きます。この学習を通じて私は市民主体の持続可能な町づくりをしているフライブルクのことを知りました。

私はフライブルクの様々なことに興味があります。例えば、環境やエネルギーに関わる政策や教育です。今私たちは、環境・貧困・エネルギーといったたくさん抱えています。私は国や政府からの一方的な指示を待つのではなく、自分たちが考えて行動を起こすことが問題の解決に必要なだと思います。フライブルクの人々は、既に自分たちで考えて行動しています。彼らの積極性が、問題の解決やその先のことにつながるのです。

一つ例を挙げましょう。1970 年代、フライブルクでは原発を建てるという計画がありましたが、市民によって反対されていました。そしてデモが起こったことにより、原発を建てるという計画はなくなりました。フライブルク市民は別のエネルギーを使うことを考え始めました。彼らは、自然とエネルギーをテーマとしたワークショップや集会を開きました。それと同時に、1980 年代から太陽光発電の開発をする企業が増えただけでなく、市民団体の数も増加し始めたのです。

私はフライブルク市民の姿勢に感銘を受けました。そして、市民主体の持続可能な町づくりに興味を持つようになりました。

ドイツ語を勉強し論文執筆の準備を進めるにつれて、私の夢はどんどん大きくなっています。私はエネルギーの自給自足をしているバイエルン州南部のヴィルトポルズグリード村や、再生可能エネルギーの地産地消に取り組むオーストリア南東部のギュッシングなどへもいつか訪れてみたいです。この夢を実現するためには、ドイツ語力と研究能力を深めていくことが重要です。それにはまだまだ長い時間がかかるでしょう。しかし、日々の努力によってこの夢が叶うと思えば、毎日がとても楽しくなります。このような旅での経験は、きっと私を成長させてくれるでしょう。そして将来、社会問題に対して積極的に行動できる人になれると信じています。【本人和訳】

Meine Traumreise

Leo Sato

Kanagawa Prefectural Yokohama Senior High School of International Studies

Meine Traumreise beginnt vor 100 Millionen Jahren, als die Dinosaurier dort waren. Ich reise durch Nordamerika, um die T-Rex zu treffen und mich mit ihnen anzufreunden. Ich hoffe, sie werden nicht denken, dass ich ein Stück Snack bin. Nachdem ich mich mit ihnen angefreundet habe, reite ich einen von ihnen und gehe in den Rocky Mountains wandern. Ich lege mich auf das Gras und verbringe entspannte Stunden mit dem T-Rex.

Bevor der Meteorit die Welt der Dinosaurier zerstört, muss ich in die nächste Ära, die Eiszeit, fliehen. In der Eiszeit muss ich zuerst das Eis der Eiszeit probieren. Es muss super lecker sein. Und dann muss ich mir was zum Anziehen besorgen, denn es ist sehr kalt. Vielleicht nicht kälter als der Witz meines Vaters, aber ich muss immer noch etwas tragen, um zu überleben, also gehe ich auf die Jagd nach dem Mammut. Diesmal bin ich nicht mit ihnen befreundet, sondern töte sie. Mammuts sind zu groß, um sie alleine zu essen, also gebe ich den alten Menschen etwas von dem Fleisch und freunde mich mit ihnen an. Sie heißen mich willkommen und wir tanzen zusammen.

Als das Eis zu schmelzen beginnt, bewege ich mich in die nächste Ära. Es ist die alte ägyptische Zivilisation. Einmal werde ich von den Soldaten erwischt, aber bald mag mich der König, und er und ich werden Freunde. Sie bringen mir bei, wie man Mumien macht, und schenken mir einen Finger von der Affenmumie.

Leider weiß ich, dass die Zivilisation ausgestorben ist, also verabschiede ich mich vom König und verlasse Ägypten. Der Ort, an den ich als nächstes gehe, ist Rom. Sobald ich ankomme, werde ich erwischt wie in Ägypten. Anders als in Ägypten werde ich gleich ins Kolosseum geschickt. Sie sagen mir, ich solle mit Löwen und Bären kämpfen, also habe ich sie mit nur einem Schlag ins Gesicht erledigt. Sie denken, ich hätte geschummelt und versuchen, mich umzubringen, daher fliehe ich in die nächste Ära.

Ich sitze oben auf der Burg von Edo und starre auf die Stadt Edo. Jetzt ist eine friedliche Zeit. Ich gehe auf den Markt und habe Spaß beim Einkaufen von Edo-Waren. Ich kaufe ein Katana als Geschenk für meinen chinesischen Freund Michael, der die japanische Kultur liebt. Ich gehe in ein Edo-Restaurant und esse Tempura. Leider war das Gemüse, das ich gegessen habe, faul und ich werde ohnmächtig.

Ich erwache in meinem gewohnten Bett in meinem Haus. Ich denke an die „Traumreise“ zurück, die ich gerade hatte, und sage: „Mama, guten Morgen!“

私の夢の旅

横浜国際高等学校（神奈川県）
2年 佐藤 怜雄

私の夢の旅は一億年前、恐竜達がいた時から始まります。私はティラノサウルスを見つけて彼らと友達になろうと考えます。おやつだと間違えられないといいなあなどと思いながら、北アメリカ大陸を旅します。ティラノサウルス達と友達になり、彼らの一匹に乗りロッキー山脈を散歩しに出かけます。草原に寝転がり、ティラノサウルスとゆったりとした時間を過ごします。

隕石が恐竜たちの世界を壊す前に、私は次の時代へと逃げなければなりません。次は氷河期です。氷河期に来たなら、まず初めに氷河期の氷がどんな味か確かめないとはいけません。とってもおいしいはずですから。次に、寒さをしのぐために何か着るものを見つけなければいけません。父さんのダジャレほど寒くはないかもしれないけれど、それでも何か厚着しなければ死んでしまいます。なので、マンモスを狩ります。今回は、友達にはなりません。殺します。マンモスの肉は一人で食べるには多すぎるので、いくらか原始人達におすそ分けし、彼らと友達になります。彼らは私を歓迎し、踊りに誘います。

氷が溶け始めるころ、私は次の時代へと旅立ちます。ここは古代エジプトです。早々に兵士に捕まっていますが、王様に気に入られ彼と友達になります。彼らは私にミイラの作り方を教えてくれて、お土産としてサルの子ミイラの指をプレゼントしてくれます。

残念なことに、私はこの文明がいずれ滅びてしまうことを知っています。だから王様に別れを告げ、次の時代、古代ローマへと旅立ちます。エジプトについた時と同じように、ローマでも衛兵に一瞬で捕まります。何かする暇もなくそのままコロッセオに送られ、私はライオンやクマと戦うよう命じられます。私は、ライオンもクマも顔面への一撃で仕留めます。彼らは私がずるをしたと疑い怒り、殺そうとするので、私は急いで次の時代へと逃げます。

江戸城の頂上に座りながら、江戸の街並みを見渡します。今は平和です。私は市場へと赴き、江戸の買い物を乐しみます。日本の文化が好きな中国人のマイケルのために、刀を買います。その後、料亭に行きてんぷらを食べます。不運にも、私が口にした野菜は腐っていたようで、私は昏倒してしまいます。

私は、私の家の、いつものベッドで目を覚まします。ついさっきまでの「夢の」旅について考えた後、こう言います。「母さん、おはよう！」【本人和訳】

Europa, mehr Europa und noch mehr Europa!

Kousei Kumagai
Ina Gakuen High School (Inagakuen Oberschule)

Ich bin Kousei und ich stelle Ihnen nun meine Traumreise vor. Da ich Fußball über alles liebe, möchte ich nach Europa reisen. Freuen Sie sich auf Europa, mehr Europa und noch mehr Europa!

Mein erster Halt wäre in Madrid, weil ich dort das *Estadio Santiago Bernabeu* besichtigen möchte. Das Stadion ist das Heimstadion vom Club Real Madrid. Ist unter Ihnen jemand, der Fan von Real Madrid ist? Das ist der beste Verein der Welt. Ich liebe Isco von Real Madrid und ich möchte ihn eines Tages gerne treffen. Er kommt aus Spanien. Deshalb möchte ich in Zukunft Spanisch lernen und mit ihm Fußball spielen.

Außerdem würde ich in Madrid auch die Gelegenheit nutzen, den *Palacio Real* zu besuchen und dort Fotos machen. Das ist der königliche Palast und die offizielle Residenz des spanischen Königshauses. Allerdings wohnt die Familie woanders. Der Palast ist doppelt so groß wie der Buckingham Palace und das Schloss Versailles. Jetzt sind manche von Ihnen sicherlich neugierig, wie der Palast aussieht. Jedoch ist die Benutzung von Fotos des Palastes mit mehreren strengen Auflagen verbunden, weshalb ich heute leider kein Foto für Sie habe. Stellen Sie sich einfach an dieser Stelle einen immensen und atemberaubenden Palast vor!

Nachdem wir den besagten wunderschönen Palast bewundert haben, geht es weiter nach London. Dort ist das Zuhause meines Lieblingsvereins, Tottenham Hotspur. Obwohl ich in Japan wohne, sehe ich mir jedes Spiel live an. Ich habe noch nie ein Spiel verpasst! Da die Spiele bei uns in Japan meistens nachts beginnen, bin ich am nächsten Tag oft super müde!

Um das zu vermeiden, würde ich einfach direkt ins Tottenham-Stadion gehen und mir das Spiel vor Ort ansehen. In London möchte ich auch die Tower Bridge besuchen. Ich stelle es mir spannend vor, die Brücke und die Türme zu betreten und mehr über die Geschichte zu lernen. Und natürlich möchte ich es nicht verpassen, vor Ort Fish und Chips zu essen!

Unser nächster Zwischenstopp ist Frankfurt. Ich denke, dass Frankfurt eine schöne Stadt und vor allem bekannt für seine interessanten Kontraste zwischen Alt und Neu ist. In Frankfurt gibt es auch viele Hochhäuser. Ich habe gehört, dass die Stadt Menschen aus vielen Ländern anzieht. Besonders gerne würde ich das Deutsche Filmmuseum besuchen. Dort können wir interessante Dinge rund um den Film bewundern, zum Beispiel wurde dort eine Puppe von *Shaun das Schaf* ausgestellt. Außerdem möchte ich auch gerne in den Deutschen Bank Park gehen. Der FC Frankfurt ist eine sehr dynamische Mannschaft und in diesem Jahr hat sie die UEFA Europa League gewonnen. Aus diesem Grund möchte ich die Spiele gerne vor Ort sehen.

Unser letzter Halt ist Mailand. War jemand von Ihnen schon einmal in Mailand? Ich möchte in Zukunft in Mailand leben, weil es dort viele berühmte Restaurants gibt. Ich esse jede Woche gerne Carbonara. So sehr liebe ich italienisches Essen! Wenn ich in Italien leben würde, würde ich wohl sehr ungesund essen.

Weil ich auch gerne einkaufen gehe, möchte ich gerne die *Galleria Vittorio Emanuele II* besuchen. Das ist ein berühmtes Einkaufszentrum mit vielen Geschäften; zum Beispiel gibt es dort das Hauptgeschäft von Prada und Louis Vuitton, wo wir den ganzen Tag einkaufen können. Die Galleria zieht auch viele Fotografen und Fotografinnen an, da das Gebäude sehr künstlerisch und prachtvoll ist.

Ich liebe mein Heimatland Japan. Aber ich kann mir gut vorstellen, in Zukunft in Europa zu leben, um vor allem dort Fußballspiele live zu sehen. Das ist mein größter Traum.

Deshalb kann ich es kaum erwarten, in Zukunft sagen zu können: „Hallo, Europa und auf Wiedersehen, Japan!“

ヨーロッパ、もっとヨーロッパ、もっともっとヨーロッパ！

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 熊谷 恒世

私は恒世です。今回はみなさんに私の夢の旅を紹介します。私はサッカーが何より好きなので、ヨーロッパを旅してみたいです。私のプレゼンテーション「ヨーロッパ、もっとヨーロッパ、もっともっとヨーロッパ！」を楽しんでご覧ください。

まずは、マドリードです。なぜなら「エスタディオ・サンティアゴ・ベルナベウ」に行ってみたくからです。このスタジアムはFCレアルマドリードのホームスタジアムです。みなさんの中にレアルマドリードファンの方はいらっしゃいますか？ レアルマドリードは世界最高のチームです。私はレアルマドリードのイスコという選手が大好きで、いつか会ってみたくです。彼はスペイン出身です。だから、将来はスペイン語を勉強して、彼と一緒にサッカーをしたいです。

また、マドリードでは「マドリード王宮」にも訪れて、そこで写真を撮りたいです。そこはスペイン王室の王宮であり、公邸です。しかし、王族は別の場所に住んでいるそうです。この王宮はバッキンガム宮殿やヴェルサイユ宮殿の2倍の広さがあるそうです。さて、皆さんの中には、この宮殿がどのようなものなのか、興味を持たれた方もいらっしゃるでしょう。しかし、宮殿の写真の使用にはいくつかの厳しい条件があるため、残念ながら今日は写真がありません。壮大で息を呑むような宮殿をぜひみなさんで想像してみてください！

その美しい宮殿を鑑賞した後、ロンドンへ移動します。そこは私の大好きなサッカーチーム、トッテナム・ホットスパーの本拠地です。私は日本に住んでいますが、そのクラブのすべての試合を生中継で見えています。一度も見逃したことがありません！ 日本ではヨーロッパの試合が夜に始まることが多いので、翌日はとても眠いです！

その対策として、私はトッテナムスタジアムに直接行って、その場で観戦します。また、ロンドンでは、タワーブリッジにも行ってみたいです。橋や塔の上を歩き、その歴史を知ることができたら、私はきっとワクワクすると思います。もちろん、現地でフィッシュ&チップスを食べることも欠かせません！

そして、その次の目的地はフランクフルトです。フランクフルトは美しい街で、特に古いものと新しいもののコントラストが面白いことで知られています。また、フランクフルトには高層ビルがたくさんあります。そして、いろいろな国の人が集まる街だと聞いています。特に、ドイツ映画博物館には行ってみたいです。例えば、「ひつじのショーン」のパペットが展示されているなど、映画に関する興味深いものを見ることができます。さらに、「ドイツバンクパーク」にも行ってみたいです。FCフランクフルトはとてもダイナミックなチームで、今年はUEFAヨーロッパリーグで優勝しました。なので、試合を現地で見てみたいです。

最後はミラノです。この中にミラノに行ったことのある方はいらっしゃいますか？ 私は将来ミラノに住みたいです。なぜならミラノには有名なレストランがたくさんあるからです。カルボナーラは毎週食べたいです。それほどイタリア料理が好きなんです！ もし私がイタリアに住んだら、きっと食べ過ぎてとても不健康になってしまうでしょう。

そして、私はショッピングも好きなので、ヴィットリオ・エマヌエーレ2世のガッレリアにも行ってみたいです。そこは有名なショッピングセンターで、たくさんのお店があります。例えば、プラダやルイ・ヴィトンの本店があり、一日中買い物をすることができます。また、ガッレリアは建築が非常に芸術的で豪華なため、多くの写真家を惹きつけています。

私は母国である日本が大好きです。でも、将来はヨーロッパに住んで、サッカーの試合を生で見ることが十分想像できます。これが私の最大の夢です。

だからこそ、こう言える日を待ちきれません。「こんにちは、ヨーロッパ、そしてさようなら、日本！」【本人和訳】

Eine Illusion, die keine Illusion ist

Miku Hashimoto
Ina Gakuen High School (Inagakuen Oberschule)

Was kommt Ihnen in den Sinn, wenn Sie „Traumreise“ hören?

Wenn ich eine Traumreise machen könnte, würde ich in die virtuelle Welt reisen. Schon als ich klein war, habe ich es geliebt, mir Geschichten und Figuren auszudenken und zu basteln. Zum Beispiel bastele ich gerne Origami. Und als ich 8 Jahre war, habe ich ein gewisses Videospiel geliebt. Sicherlich ist einigen von Ihnen dieses Spiel bekannt. Und zwar spreche ich von *Minecraft*.

Es ist ein virtuelles Spiel, in dem Sie viele Dinge und Abenteuer erleben können, während Sie Blöcke sammeln. Es gibt Dinge, die wir im wirklichen Leben nicht machen können, sondern nur in der virtuellen Welt. Nehmen wir zum Beispiel an, Sie spielen mit Blöcken im wirklichen Leben. Sobald das Ende naht, müssten Sie sofort alle Blöcke wegräumen. Ich könnte nicht einfach alle Blöcke stehen und liegen lassen und am darauffolgenden Tag damit weiterspielen.

Dieser Gedanke war sehr enttäuschend. Aber als ich 8 Jahre alt war, habe ich *Minecraft* für mich entdeckt und das änderte für mich alles! Oder besser gesagt, es änderte die Welt meines achtjährigen Ichs. Ich stieß auf ein Spiel, das jederzeit fortgesetzt werden konnte und ich fand es faszinierend, dass ich in dieser virtuellen Welt so viele Sachen aufbauen konnte, ohne mir zu viele Gedanken zu machen. Ich habe angefangen, Freude daran zu finden, Dinge von Grund auf neu zu erschaffen. Ich dachte, dass diese Welt unendliche Möglichkeiten hat. Deshalb habe ich dort gern Zeit verbracht, weil es einfach so viel Spaß macht! Das Beste ist allerdings, dass man in diesen Welten viele Freundschaften schließen kann. Die Welt der Computerspiele hat mir viele neue Türen eröffnet.

Es ist faszinierend, dass nicht nur in der Wirklichkeit, sondern auch im Internet neue Freundschaften entstehen können. Vielleicht ist es mit dem Weltraum ähnlich? Viele von uns denken, dass der Weltraum ein spannender Ort ist, weil wir noch nicht so viel darüber wissen. Sowohl Kinder als auch Erwachsene sind neugierig darüber.

Warum möchten manche einmal in den Weltraum gehen? Wenn wir dorthin gehen könnten, könnten wir ganz von vorne anfangen, denken vielleicht manche. Man könnte der jetzigen Welt und dem Leben entfliehen, mit dem man nicht zufrieden ist. Das wäre natürlich nur eine Übergangslösung, denn wir nehmen letzten Endes die Probleme mit, die wir auf der Erde haben. Aber ein bisschen Fantasie und eine kleine Reise kann uns vielleicht inspirieren, nach neuen Lösungen zu suchen. Oder uns zumindest ein bisschen ablenken, bevor wir uns wieder der Realität stellen.

Haben Sie auch einen Rückzugsort? Vielen Dank.

幻想では終わらない幻想の世界

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 橋本 美紅

「夢の旅行」と聞いて何を思い浮かべますか？

もし私が夢の旅行をできるとしたら、私はバーチャルワールドへ旅をしたいです。小さい頃から私は物語やキャラクターを創造することや工作することが好きでした。例えば、私は折り紙を作ることが好きです。そして8歳の時、あるテレビゲームが大好きになりました。このゲームをご存じの方もいらっしゃると思います。「マインクラフト」についてお話します。

それはブロックを集めながら、さまざまな体験や冒険ができるバーチャルゲームです。その中には、現実世界ではできないが、バーチャルワールドではできることがあります。例えば、現実世界でブロックで遊んでいたとしましょう。終わりの時間が近づくとすぐに、全てのブロックを片付ける必要があります。それらの組み立てたブロックを残して、翌日また続きで遊ぶことはできません。

これは非常に残念なことでした。しかし、8歳の時に「マインクラフト」と出会い、それが私の全てを変えました！　　というか、8歳の自分の世界を変えてしまったのです！　　いつでも続きからできるゲームに出会い、悩むことなく、仮想世界でこれだけのものを作れることに魅力を感じました。ゼロからモノを作ることに喜びを感じるようになったのです。この世界には無限の可能性があると思いました。それはとても楽しく、そこで過ごす時間が好きでした。何よりも、この世界では多くの友情を築くことができます。コンピューター・ゲームの世界は、私にたくさんの新しい扉を開いてくれました。

現実世界だけでなくネット上でも新しい交友関係が広がるのは魅力的です。宇宙と似ているかもしれませんね？　宇宙についてまだあまりよく知らないので、私たちの多くは、宇宙はワクワクする場所だと考えています。子どもも大人も興味津々です。

なぜ宇宙に行きたいと思う人がいるのでしょうか？　そこに行くことができれば、ゼロからまた始めることができると考える人もいるかもしれません。満足していない現実の世界や人生から逃れることができます。もちろん、それは一時的な解決策にすぎません。結局は、地球上で抱えている問題を持ち込んでしまうからです。しかし、ちょっとした想像力とちょっとした旅が、新しい解決策を探すきっかけになるかもしれません。少なくとも、再び現実と直面する前に、少し気を紛らわせたいですね。

あなたにもそんな逃避できる場所がありますか？　ありがとうございました。【本人和訳】

Musik verbindet uns alle

Moana Nakamura
International Christian University High School

Waleri Gergijew, so heißt der russische Dirigent, der vor kurzem aus der Münchner Philharmonie verbannt wurde. Er hatte eine bestimmte Ansicht über den Überfall auf die Ukraine und hatte eine freundschaftliche Verbindung mit Präsident Putin. Dadurch wurde er auch zusammen mit seiner Musik bzw. seinem Musizieren verbannt. Ich finde es sehr traurig, dass aus politischen Gründen die Gelegenheit zu musizieren oder das Vorspiel zu hören verloren geht. Denn Musik war auch ein wichtiger Faktor für mich, um das Verständnis gegenüber anderen zu vertiefen.

Durch meine Erfahrungen habe ich an der Musik eine besondere Eigenschaft festgestellt. Musik ist ein wichtiger Teil meines Lebens geworden, weil ich seit dem dritten Lebensjahr Geige spiele. Viele glauben, dass es darum geht, schwierige Stücke zu spielen und fehlerfrei zu spielen. Welche Stücke sie spielen, zeigt ihre Persönlichkeit, denken sie vielleicht. Ich denke aber, dass der Musiker, der seine eigene Geschichte am besten musikalisch erzählen kann, am höchsten bewertet werden soll. Natürlich ist es von großer Bedeutung, wer der Komponist ist, woher das Stück kommt und wie es geschrieben ist. Doch der Sinn des Musizierens liegt darin, dass jeder auf unterschiedliche Weise und nach unterschiedlicher Interpretation spielt. Denn sonst wird einfach ein Roboter reichen. Und es ist erstaunlich, wie divers Musik einem erscheinen kann.

Ein weiterer interessanter Punkt an der Musik ist, dass es eine weltweit verstandene Sprache ist. An dem Musikgymnasium, wohin ich ging, sammelten sich Schüler aus mindestens 20 Ländern. Jeder hatte einen anderen Hintergrund, andere Denkweisen und Empfindlichkeiten. Aber wenn wir versuchten, ein Stück zusammen zu produzieren, entstand eine magische Verbindung zwischen uns allen. Wenn jeder einen einzigartigen Klang herstellt, so dass alle als Harmonie zusammenpassen, und diese Harmonie in unsere Körper strömt, fühlen wir Freude. Dieses Gefühl ist einfach unbeschreiblich. Auch als ich noch kein Deutsch sprechen konnte, hat das Musizieren mir Gelegenheit gegeben, mit Deutschen in der Schule zu sprechen. So kannte mich jeder damals als „das Mädchen, das Geige spielt“. Deshalb finde ich, dass Musik ein sehr effektives Mittel für das gegenseitige Verständnis ist.

Diese Eigenschaften der Musik haben große Auswirkungen auf die Hörer. Als Musikerin bin ich glücklich, wenn der Zuhörer meine Erzählung so versteht, wie ich es interpretiert habe. Gleichzeitig empfindet jeder anders, in seiner eigenen Weise. Als die Corona-Pandemie die Welt erschütterte, haben viele Musiker versucht, durch Garten- und Balkonkonzerte den Leuten Mut zu machen. Ähnliches geschieht jetzt in der Ukraine, wo viele mutige Musiker für die Leute im Krieg Konzerte veranstalten. Die Zuhörer sind vielleicht tiefer bewegt, als die Musiker erwarten, und entdecken den Zusammenhalt der Gesellschaft wieder. Wenn auch Herr Gergijew für seine Haltung kritisiert wird, würde er durch das Musizieren in Deutschland zeigen können, dass das nur eine politische Sache ist. Es ist Musik, die es ausmacht, und nicht die Person sich selbst. Ich meine, seine Musik hatte mit der Ukraine nichts zu tun.

Durch seinen Ausschluss haben wir ein wichtiges Wertstück verloren. Vielmehr sollte man die Eigenschaft der Musik nochmals in Erwägung bringen: Musik verbindet Leute. Musik hat keine Nationalität. Zwar kann ich gut verstehen, dass viele Schwierigkeiten haben, die Russen zu akzeptieren. Aber wir sollten vielleicht noch einmal nachdenken: ob es nicht besser wäre, anstatt die Kommunikation abubrechen, durch Musik zu versuchen, uns gegenseitig zu verstehen.

音楽はつなぐ

国際基督教大学高等学校（東京都）

1年 中村 もあな

最近、ミュンヘン・フィルハーモニーから一人のロシア人の指揮者が追放された。彼の名前はヴァレリー・ゲルギエフ。彼はウクライナ侵攻についてある種の見方を持っており、プーチン大統領と友情関係があった。そのことによって、彼は音楽及び演奏とともに追放された。私は政治的な理由で演奏する機会、または演奏を聞く機会がなくなってしまうことを非常に残念に思う。なぜなら音楽は私にとって互いの理解を深める大切な要素であったからだ。

私は経験を通して音楽に特別な性質をみつけた。私は3歳からヴァイオリンを習っているので、音楽は私の人生において大切な一部となった。まだドイツ語を話せなかったときも、音楽は学校でドイツ人と話す機会を与えてくれた。そのおかげで当時私は周りの人々から「ヴァイオリンを弾く女の子」として知られていた。多くの人は難しい曲を弾くことや間違いなく弾くことが重要だと思っている。またどのような曲を演奏するかが性格を表していると考えているかもしれない。しかし私は自分の物語を最も良く音楽的に表現できる音楽家が一番高く評価されるべきであると思う。もちろん作曲家が誰か、その曲がどこからきたか、またどうやって書かれたかは大きな意味をもっている。だが演奏することの意味は、一人一人が異なった方法と解釈で弾くことにある。さもなくばロボットで十分である。そして音楽が人によってこんなにも多様に受け止められるのは驚くべきことである。

音楽についてのもう一つの興味深い点は、世界中で理解される言葉である、ということである。私が通っていた音楽高校では、少なくとも20カ国からの生徒が集まって来ていた。それぞれが違った背景、考え方、受け取り方を持っていた。ところが私たちが一つの曲を作り上げようとする、私たちの間に魔法のような結びつきが生まれた。それぞれがかけがえのない音を生産してそれがハーモニーとして合致し、またそのハーモニーが私たちの体に流れ込む時に私たちは喜びを感じる。この感情はなんとも言えないものだ。まだドイツ語を話せなかったときも、音楽は学校でドイツ人と話す機会を与えてくれた。そのおかげで当時私は周りの人々から「ヴァイオリンを弾く女の子」として知られていた。それゆえ、私は音楽が互いを理解するのにとても有効な手段だと思う。

音楽のこのような特性は聴衆に大きな影響を与える。音楽家として、聴衆が私が解釈したとおりに私の物語を受け取ってくれたときに嬉しく感じる。同時に、みんなそれぞれのやり方で捉えている。コロナ禍が世界を揺るがせたときに、音楽家たちはガーデンコンサートやバルコニーコンサートを開催して人々を勇気づけようとした。今、多くの勇気ある音楽家がウクライナでコンサートをひらき、同じようなことが起きている。聴衆は演奏家が想像しているよりはるかに深く揺さぶられて、社会の団結を再発見していることであろう。ゲルギエフ氏が問題により批判されたとしても、演奏をしていればこれは政治的な問題に過ぎないということを示せたであろう。大事なものは音楽であり、その人自身ではない。私が思うに、彼の音楽はウクライナと何の関係もない。

彼の追放によって私たちは一つの大切な作品を失ってしまった。音楽の性質をもう一度思い起こすべきである。音楽は人をつなぐ。音楽には国籍がない。多くの人がロシア人を受け入れることを困難に感じているのは良くわかる。しかしもう一度考え直すべきではないか。コミュニケーションを打ち切るのではなく、音楽を通して互いに理解するように努力するほうが良いのではないだろうか。【本人和訳】

Probleme der verzerrten Nachrichten in den Mainstream-Medien

Yuri Hosoe
International Christian University High School

Es ist uns allen bewusst, was gerade in der Ukraine abläuft. Russland unter Putins Macht kämpft, um die Ukraine zu überfallen. Der Grund dafür ist, dass die Ukraine in die NATO eintreten will. Doch der Krieg betrifft nicht nur die zwei Länder. Sogar Japan ist betroffen, da die Unternehmen Stoffe wie Brennstoffe, Erdöl und Holz aus Russland importieren. Nach dem Zweiten Weltkrieg gab es keine grossen Kriege mehr in Europa. Deswegen haben viele vermutet, dass es dort keine Kriege mehr gibt. Bis vor Kurzem war auch für mich Krieg nur etwas in Schwarz-Weiss-Filmen und Fotos.

Aber was ist mit den Konflikten in den Ländern ausserhalb Europas? Zum Beispiel wissen viele nichts über die Situation der Uiguren in China. Seit 2018 werden in China die islamischen Uiguren in sogenannte „Umerziehungslager“ gebracht. Dort werden sie gezwungen, dem islamischen Glauben abzuschwören und die Ideologie der Kommunistischen Partei von China zu übernehmen. Wenn sie nicht dem Staat gehorchen, werden sie bestraft und gefoltert. Die Situation dort ist nicht viel anders als die in den Konzentrationslagern während des Zweiten Weltkriegs. Doch wieso wird in Japan diese Situation nicht mehr in den Vordergrund gestellt? Wir alle haben über die unmenschlichen Handlungen der Nazis gelernt und wissen, dass so etwas nie wieder passieren darf.

Meiner Meinung nach interessieren wir uns mehr für den Krieg in der Ukraine als für die Situation der Uiguren. Das klingt sehr merkwürdig, denn unter anderen Gründen sind wir und die Uiguren Asiaten. Wieso fühlen wir uns näher an den Ukrainern statt an den Uiguren? Der Grund dafür ist, dass wir Japaner unser Land als ein bereits entwickeltes Land sehen. Wir leben in einem Land mit fortgeschrittener Technologie und haben Beziehungen zu anderen fortgeschrittenen Ländern. Deshalb können wir uns stärker auf die USA oder die Länder in Europa beziehen. Japan hat weniger Interesse an politischen Minderheiten, die sich weniger an der internationalen Politik beteiligen. Alle Länder interessieren sich nur für etwas, wenn sie etwas zu verlieren haben oder wenn sie etwas Gutes daraus ziehen können.

Bis letzten August habe ich in der Schweiz gewohnt. Dort habe ich vieles über Kriege im Geschichtsunterricht gelernt – vor allem über den Zweiten Weltkrieg. Als ich die Artikel über die Uiguren-Internierungslager gelesen habe, dachte ich sofort an die Klassenausfahrt zu einem Konzentrationslager, bei der ich zu einer tieferen Kenntnis über das Konzentrationslager kam. Zusätzlich dazu habe ich auch einen Aufsatz darüber geschrieben. Deswegen verstehe ich, wie grausam die Situation in dem Konzentrationslager war, und ich kann es mir nicht vorstellen, dass die Uiguren auch ähnlich interniert sind. Es ist beunruhigend, dass wenige über die Situation der Uiguren Kenntnis haben, obwohl die Nazis so stark kritisiert werden. Ich vermute, es liegt teilweise daran, dass in Japan und auch in anderen Ländern nur Mainstream-Nachrichten in den Medien gezeigt werden. Nicht alle Probleme in der Welt werden in Mainstream-Nachrichten behandelt. Die Nachricht ist erst dann Mainstream, wenn das eigene Land betroffen ist. Gerade im japanischen Fernsehen werden nur Nachrichten über die Ukraine und Russland gezeigt. Natürlich ist der Konflikt sehr wichtig und wir sollten alle darüber informiert sein. Aber was ist mit den Konflikten in anderen Ländern? Könnten wir den politischen Minderheiten nicht auch ein bisschen helfen, indem wir Informationen über die Konflikte verbreiten?

Es ist ganz klar, wie Länder verschiedene Nachrichten priorisieren. Und je nachdem, was das Land, in dem man lebt, priorisiert, werden wir unterschiedliche Informationen erhalten. Nachrichten sollten neutral sein. Was im Fernseher läuft oder was in den Zeitungen steht, sollten nicht nur Mainstream-Nachrichten sein. Wir sind uns alle einig, dass die Konzentrationslager aus dem Zweiten Weltkrieg inakzeptabel sind. Dann sollten die Informationen über die Situation der Uiguren in China verbreitet werden, und es sollte etwas dagegen getan werden. Es gibt keinen Konflikt, der weniger wichtig ist als der andere.

主要メディアによる情報伝達の偏り

国際基督教大学高等学校（東京都）

3年 細江 優里

ウクライナの状況について私たちは皆よく知っている。プーチン支配下のロシアがウクライナに戦闘を仕掛けた。それはウクライナが NATO に加盟を希望したからである。だが戦争は二国だけの問題では済まされない。石油とガスの値段が上昇している。日本も企業が燃料、石油と木材といった原料をロシアから輸入しているため、同じような状況に陥りつつある。第二次世界大戦後、ヨーロッパでは大きな戦争が行われなかった。だから人々はそこでは戦争がもはや行われまいだろうと思った。つい最近まで、私にとって戦争は白黒映画と写真だけに出てくるものだった。

しかし、ヨーロッパ以外での争いはどうなのか。例えば多くの人々は中国のウイグルの状況について知らない。2018 年以降、中国ではイスラム系のウイグル人がいわゆる再教育収容所に連行されている。ここでは、自分たちの宗教、すなわちイスラム教を禁止され、中国の共産党のイデオロギーを受容するように強要されている。彼らは国家に従わないと罰せられて拷問を受けている。そこでの状況は第二次世界大戦中の強制収容所の状況とそれほど異なっていない。だが、なぜこのような状況について日本ではもっと知られていないのか。私たちは皆ナチスの非人間的なふるまいについて学んでおり、それが二度と行われてはならないことを知っている。

私が思うには、私たちはウイグルの出来事よりウクライナの戦争の方により関心を持っている。このことはとても奇妙に思える。なぜならウイグル人はなによりも私たちと同じアジア人であるからだ。なぜ、私たちはウイグル人の立場よりウクライナ人の立場の方をより近く想像することができるのか。それは、私たち日本人が日本を先進国だとみなしているからだ。私たちは進んだテクノロジーを持っている国に住んでいて、他の先進諸国との関係を持っているからだ。だから、私たちはむしろアメリカ合衆国やヨーロッパ諸国との、より密接な関係を持っている。日本は国際政治で取り上げられない政治的少数者にあまり関心を持たない。どの国も自分が損をする時か、その状況から何かを得られる時にしか関心を持たない。

去年の 8 月まで私はスイスに住んでいた。そこで、私は歴史の授業で戦争について多くを学んだ。特に第二次世界大戦について。私はウイグル人が連行されている再教育収容所についての記事を読んだとき、真っ先にクラスで行った強制収容所のことを思い出した。そこで私自身は強制収容所についての深い知識を得、それについてレポートを書いた。それゆえ、私は強制収容所の残酷さを理解していて、ウイグルの人たちが同じように連行されていることが信じられない。ナチスはひどく批判されているのにウイグルの状況があまり知られていないことは気がかりである。私が思うには、日本でも他国でもメインのニュースしかメディアで流されないことにも原因がある。問題は、世界で生じている問題がすべてメインのニュースとして扱われていないことだ。その国に関連する出来事があって初めてメインのニュースとなる。現在日本のテレビではウクライナとロシアのニュースしか流れていない。確かにそれは大きな問題で皆この戦争について知っておくべきだとは思ふ。だが他の国で起こっている問題はどうか。そこでの戦争についての情報を広めることで、少しは政治的少数者の力になれるのではないか。

国によってニュースの優先順位が違う事は明白だ。住んでいる国によって受け取る情報は異なっている。ニュースは中立であるべきだ。テレビで流れる内容や新聞で読むものはメインのニュースだけであってはならない。住んでいる国に関係ない問題でも、それについて知った方が良いでしょう。第二次世界大戦の時の強制収容所はあってはならないものだという事には皆賛成している。それならば、中国に住んでいるウイグル人についての情報を広めて行動を起こすべきであろう。他の争いより重要度の低い争いなど存在しない。【本人和訳】

Ein Leben ohne Tod

Nina Saaler
Seijo Gakuen Senior High School

Haben Sie einmal darüber nachgedacht, dass Menschen mit Hilfe der Medizin einmal unsterblich werden können? Oder haben Sie sich einmal gewünscht, dass jemand wieder zum Leben erweckt wird?

Als ich noch in der Grundschule war, hatte ich einmal einen schrecklichen Traum, an den ich mich noch gut erinnere. In dem Traum waren meine Eltern plötzlich verschwunden und ich konnte sie nirgends mehr finden. Ich hatte das Gefühl, dass ich sie niemals wieder treffen könnte. Zum Glück war alles nur ein Traum. Aber weil ich solche Angst hatte, fragte ich meine Eltern: „Ihr sterbt doch nicht, oder?“ Ich kann mich noch gut an ihre Gesichter in diesem Moment erinnern.

Damals wusste ich eigentlich gar nicht, was der Tod bedeutet. Plötzlich hatte ich eine große Furcht davor. Ich hatte Angst, dass ich selber irgendwann sterbe, und ich wünschte mir, dass niemand stirbt, mit dem ich verwandt oder befreundet war.

Vielleicht wird mein Wunsch irgendwann wahr werden, denn die Medizin macht immer mehr Fortschritte. Man kann in der nahen Zukunft Krankheiten heilen, die bisher als unheilbar galten. Eine Forschergruppe an der Keio-Universität hat zum Beispiel neulich eine Methode gefunden, wie man Querschnittslähmung heilen kann. Bisher galt Querschnittslähmung als unheilbar. Bei dem Experiment werden Zellen in den Patienten transplantiert, aus denen sich Nerven entwickeln. Viele Menschen mit Querschnittslähmung haben lange gewartet, dass eine Heilmethode entwickelt wird. Man kann mit der von der Forschergruppe entwickelten Methode auch andere Krankheiten heilen. Selbst Krebs soll man damit heilen können. In der Zukunft könnte es dann sogar möglich werden, unsterblich zu werden.

Aber ist es eigentlich gut, dass man unsterblich wird oder für immer jung bleibt? Natürlich ist die Entwicklung der Medizin positiv. Aber sie bringt auch Probleme, wie zum Beispiel Ungleichheit in der medizinischen Versorgung. In Japan ist es selten, dass man keine Medikamente oder medizinische Hilfe bekommen kann, da alle Leute in der Krankenversicherung sind. Aber in vielen Ländern, z.B. in Afrika, gibt es nur wenige Krankenhäuser, Ärzte und Medikamente. In Amerika gibt es viele Menschen ohne Lebensversicherung, und viele können sich medizinische Versorgung nicht leisten. Das heißt, die sozialen Unterschiede wirken sich auf die medizinische Versorgung aus. Arme Menschen können keine gute medizinische Versorgung bekommen. Sie können manche Medikamente und Behandlungen nicht bekommen. Wenn die Preise für die modernste medizinische Technik steigen, wird die Ungleichheit in der medizinischen Versorgung sich weiter vergrößern.

Viele Menschen möchten länger und gesünder leben. Das gilt auch für mich. Aber wenn das Leben so lang oder sogar ewig ist, ist es dann immer noch wertvoll? Ich glaube, unser Leben ist so wertvoll, weil es so kurz ist. Ich denke nicht, dass wir die Entwicklung der Medizin stoppen sollen. Aber wir sollten gut darüber nachdenken, ob es gut ist, unsterblich zu werden.

Jeder Mensch wird irgendwann sterben. Auch ich. Keiner weiß, was morgen passiert. Deshalb sollte man vor allem die Zeit, die man hat, gut nutzen. Das Leben ist zu kurz für Videospiele und Handys. Wir sollten uns mehr um andere Menschen kümmern und aus unserem Leben etwas Besonderes machen.

死のない世界

成城学園高等学校（東京都）
2年 サーラ 仁菜

あなたは人々がいつか医学の助けによって不死になれると考えたことはありますか。それとも、誰かが生き返ることを願ったことはありますか。

私がまだ小学生の頃、今でもよく覚えています、とても恐ろしい夢を見たことがあります。その夢の中で、両親が突然消えてしまい、どこにも見つからず、二度と会うことができないというものでした。幸いなことに、それはすべてただの夢でした。しかし私はとても怖くて両親に「死んだりしないよね」と尋ねました。私はその時の両親の顔を今でもよく覚えています。

その頃は、まだ死が何を意味するのかよく分かっていませんでした。しかしその夢を見た後、突然、死に対する恐怖を感じました。私は自分自身がいつか死んでしまうのではないかという不安、そして私の周りの人が誰もいなくならないでほしい、そう強く願いました。

この私の願いがいつか叶う日が来るかもしれません。なぜなら、医療は日々進歩しているからです。近い将来、これまで不治の病だと言われていき病気を治すことができるようになるかもしれません。最近、慶應大学の医療研究チームが、脊髄損傷を治すことができる医療法を発見しました。これまでは脊髄損傷は治すことができない病気だと考えられていました。今回の実験では特定の細胞を患者に移植することによって体内で神経を再生させるそうです。多くの脊髄損傷の患者は、この治療法を心待ちにしていました。研究チームが開発した方法は、他の病気の治療にも使え、癌でさえ治すことができるようになるそうです。更に将来、不死になることも可能になるかもしれません。

しかし、人間が不死になったり、いつまでも若いままだったりすることは、本当に良いことなのでしょうか。もちろん医療の発展はいいことですが、それに伴い医療の不平等などの問題を引き起こすこともあります。日本では誰もが健康保険に加入しているので、薬や医療の助けを受けられないということは滅多にありません。しかし、多くの国、例えばアフリカなどでは、病院、医者、薬が足りない状態です。アメリカでは、健康保険に加入していない人が多く、医療費を払えない人がたくさんいます。つまりこれは、社会的格差が医療という側面に影響を与えているということです。貧しい人々は十分な薬と治療を受けることができません。最新の医療技術が発展し価格が上昇するにつれ、医療の不平等は拡大し続けます。

多くの人が、より長くより健康で生きたいと思っています。それは私にも言えることです。しかし、人生が終わりのないものであるならば、その人生は果たして価値があるといえるのでしょうか。私たちの人生は短いからこそ貴重なのだと思います。私は医療の発展を止めるべきだとは思いませんが、私たちは不死に近づくことが良い選択なのか今一度慎重に考えなければなりません。

誰もがいつかは死を迎えることになります。私も同様です。明日何が起こるかは誰にも分かりません。だからこそ今あるこの時間を、意味のあるものとして使わなければなりません。人生をビデオゲームや携帯電話だけに費やすのはもったいないことです。私たちはより他の人に目を向け、限りある時間の中で、私たちの人生を意味のある特別なものにしていかなくてはなりません。【本人和訳】

Für den Frieden von morgen

Rentaro Matsushima
Keio Shiki Senior High School

Angesichts des russischen Einmarsches in die Ukraine in diesem Jahr beschloss die deutsche Regierung, schwere Waffen zu liefern. Aufgrund des neunten Artikels der japanischen Verfassung ist für Japan die Lieferung von Waffen in die Ukraine keine Option. Obwohl Japan und Russland territoriale Streitigkeiten haben, muss es Japan glasklar sein, dass es keine Gewalt dulden kann. Was können wir dennoch tun, um eine zweideutige Aussage über den Krieg zu vermeiden? Ich denke, dass jeder Erfolg auf Fehlern basiert. Deswegen können wir nicht über das Jetzt nachdenken, ohne aus der Vergangenheit zu lernen. Heutzutage wiederholt sich eine traurige Geschichte. Es ist jetzt ein wichtiger Zeitpunkt, um auf die Vergangenheit zurückzublicken.

Als ich in Frankfurt lebte, gehörte ich einer Fußballmannschaft an. Dort planten unsere Eltern eine Weihnachtsfeier. Vor dem Abendessen besuchten wir das Jüdische Museum. Zuerst dachte ich: „Als Weihnachtsfeier ins Holocaust-Museum? Vielleicht ist das ein deutscher Witz, den man selten macht.“ Ehrlich gesagt hatte ich Angst, als Japaner mit meinen Kumpeln etwas über den Holocaust zu lernen. Denn mein Team war kulturell gemischt und ich dachte, wir müssen bei diesem Thema vorsichtig sein. Zwar war es definitiv keine angenehme Erfahrung, aber eine sehr bedeutungsvolle.

Im Jüdischen Museum erlebte ich einen bedeutenden Moment. Als ich mit meinen Freunden am Ende der Tour vor den Gedenksteinen mit zahllosen Namen der Opfer stand, schwiegen wir lange ohne Absicht. Der Hass und die Diskriminierung, die unter der Nazi-Diktatur aufgerufen wurden, verwandelte sich in unser Schweigen. Schweigend um die Opfer zu trauern musste für uns den Protest und das Versprechen bedeuten, solche Verfolgung nie wieder geschehen zu lassen. Erst nachdem wir unsere Komfortzone verlassen hatten und die Tragödie im Museum gelernt hatten, konnten wir mit ganzem Herzen über die Geschichte nachdenken. Da wurde mir klar, wie wichtig es ist, über die negative Seite der Geschichte zu lernen. Als ich nach Japan zurückkam, bemerkte ich, dass die deutsche Bevölkerung nie aufhört, unnachgiebig über die dunkle Seite der Geschichte zu lernen.

Jetzt bitte ich Sie, nachzudenken, ob es Möglichkeiten gibt, an die Täterseite Japans zu denken. Wahrscheinlich gibt es im Vergleich zum Holocaust einen großen Unterschied. Jedoch habe ich bis heute das ungute Gefühl, dass viele Jugendliche an japanischen Schulen wegen der Tagespolitik nichts über Kriegsverbrechen lernen. Zum Beispiel ist in dem Lehrbuch der Geschichte Japans, das ich jetzt verwende, auf fast 400 Seiten nichts über das Massaker in Nanking beschrieben. Ebenso gibt es keinen Grund, warum wir uns seit Jahren mit China so streiten. Viele Menschen schließen die Augen vor geschichtlichen Problemen wie dem der Kriegsverbrechen. Weil es für alle Japaner*innen ein Problem ist, ergibt dieses „Schweigen“ keinen Fortschritt.

Beim Geschichtslernen geht es darum, nicht nur über die gute, sondern auch über die schlechte Seite zu lernen. Inmitten dieser Invasion findet sich eine entscheidende Gelegenheit für die Menschen in Japan, über die Vergangenheit nachzudenken. Ohne eine Reflexion über die Vergangenheit fehlt es den Aussagen zu Russland an Überzeugungskraft. Wir dürfen beim Lernen über Fehler nicht zögern. Ist nicht die Grundidee des neunten Artikels der Verfassung „die Feder ist mächtiger als das Schwert“? Dann verlassen wir doch die Komfortzone, so wie ich es in Deutschland tat und greifen zur Feder.

明日の平和のために

慶應義塾志木高等学校（埼玉県）
3年 松島 蓮太郎

今年のロシアによるウクライナ侵攻を踏まえてドイツは兵器の供給を決定した。日本は憲法第9条により兵器を送ることはできない。一方で、日本はロシアとの領土問題を抱えている以上、暴力を決して容認しないことをはっきりと示さなくてはならない。そんな中、意思が曖昧にならないためには日本はどうすれば良いのか。私は、失敗は成功のもとであるように、現在を考えるには過去の失敗から学ばなくてはならないと思う。そして、今現在負の歴史が繰り返されているからこそ、過去の失敗を学ぶ重要な機会である。

私がフランクフルトに住んでいたとき現地のサッカーチームに所属していた。そのチームのクリスマスパーティーの一環として晩ご飯の前にチームでユダヤ人博物館に行くことが決定した。最初は「クリスマスパーティーでホロコーストを学ぶなんて、めったにないジャーマンジョークなのか」と思った。正直私には抵抗感と恐れがあった。私のチームには様々な文化的背景を持つ仲間がいて、戦争というテーマに関しては慎重であるべきだと考えていた。実際決して快い経験ではなかったが、それ以上に大きな意味があった。

ユダヤ人博物館では重要な瞬間があった。それは見学が終わったあと、犠牲者の名前の刻まれた無数の石碑を前にしたとき私たちが思わず沈黙したときだ。ナチスの支配下で存在していた憎しみや差別の声は、私たちの迫害された人々を悼む沈黙へと変わった。失われた命を悼む沈黙は私たちの迫害に対する強い反対とそれを二度と起こさない誓いでもあった。まず最初にコンフォートゾーンから出て博物館で悲劇について学べたからこそ、私たちは歴史と心から向き合えた。その瞬間、私は負の歴史と向き合う重要性を理解した。そして日本に帰国して今、いかにドイツが負の歴史と向き合うことを止めていないか感じる。

ここで私は皆さんに考えてもらいたい。私たちに日本の加害者的側面を考える機会があるだろうか。確かにホロコーストとは規模が違うかもしれない。しかし私は現在の政治を理由として、学校で戦争犯罪について学べていないことに危機感を感じている。例えば、現在使っている日本史の教科書、約400ページある中で南京事件について詳しく説明されている部分はない。未だになぜ中国と論争が起きているのか説明すらない。多くの人が戦争犯罪のような問題に対して目を瞑ってしまう。国民として考えるべき問題であるのにも関わらず、この「沈黙」は何も進展をもたらさない。

歴史を学ぶには、良い部分と悪い部分の両方と向き合う必要がある。今回の軍事侵攻は日本にとって自国の歴史を振り返る重要な機会である。過ちを省みずしてロシアに対する非暴力の訴えは説得力を持ちえない。私たちは決して過ちを学ぶことを恐れてはいけない。「ペンは剣よりも強し」それが日本国憲法第9条の哲学ではないのか。だからこそ私がドイツで出来たようにコンフォートゾーンから抜け出し、ペンを持つべきである。【本人和訳】

Eine Welt, in der wir lieben können, wen wir wollen?

Saaya Takahashi

Ina Gakuen High School (Inagakuen Oberschule)

Ich denke, viele von uns haben Dinge, die uns auf den Herzen liegen. Über die wir gerne sprechen möchten, aber aus verschiedenen Gründen nicht sprechen können. Vielleicht aus Druck, aus Scham oder aus Angst? Dass ihnen jemand sagt: „Reg dich doch nicht über solche Kleinigkeiten auf. Es gibt doch viel schlimmere Probleme.“ Oder: „Ja, das ist leider so. Allerdings ist es schwierig, etwas daran zu ändern.“ Auf Japanisch gibt es für Letzteres einen Begriff, den viele von uns sicherlich gut kennen: 仕方ない。

Vielleicht kennen Sie das Gefühl. Wann war das letzte Mal, dass Sie sich einmal so richtig beschwert haben? Einfach alles rausgelassen haben, was Sie schon länger nervt? Ohne, dass jemand Ihre Sorgen kleinredet? Sondern einfach nur zuhört? Denn das werde ich heute tun. Ich werde an dieser Stelle die Gelegenheit nutzen, mich zu beschweren.

Mein Name ist Saaya. Ich bin 17 Jahre alt und ich bin in der Handball-AG. Als ich in der Grundschule war, wollte ich beim Sportwettkampf als Cheerleaderin die Mannschaften anfeuern. Allerdings wurde mir damals von männlichen Lehrern gesagt: „Als Mädchen solltest du das nicht tun.“ Was hat das denn damit zu tun, ob ich ein Mädchen oder Junge bin? Wie hat denn ein „Mädchen“ ihrer Vorstellung nach zu sein? Ich fühlte mich unfair behandelt. Damals fühlte ich mich zum ersten Mal diskriminiert.

Als ich in der Mittelschule war, zeigte mein Sozialkundelehrer den berühmten Bruderkuß zwischen Leonid Breschnew und Erich Honecker auf dem 30. Jahrestag der DDR und kommentierte das Foto mit folgenden Worten: „Abstoßend.“ Unglaublich, finden Sie nicht?

Ich hatte mich nie unwohl gefühlt, bis ich zur Schule ging. In der Schule habe ich dann gemerkt, wie viel Diskriminierung besonders Mädchen und Frauen erleben. Es ist kein Geheimnis, dass Japan beim Global Gender Gap sehr weit unten liegt. Zum Beispiel habe ich noch nie eine weibliche Schuldirektorin an meiner Schule gesehen. Ich denke, dass viele von Ihnen wissen, dass nicht so viele Frauen in Führungspositionen in Japan sind. Ich wünsche mir, dass in Japan gerade jungen Mädchen wie mir die gleichen Chancen geboten werden wie den Jungs und dass es in Zukunft eine Selbstverständlichkeit wird, mehr Frauen in Führungspositionen zu sehen.

Mein Freund hat einmal das Wort „Coming Out“ benutzt, als er mit mir gesprochen und sich als bisexuell „geoutet“ hat. Ich verstehe nicht, dass es überhaupt einen Begriff dafür gibt. Warum müssen manche Menschen in erster Linie ihre Geschlechtsidentität geheim halten? Wer kam auf die Idee, dass manche Menschen sie geheim halten müssen oder dass sie sich überhaupt „outen“ sollen? Wegen bis heute anhaltenden Vorurteilen? Wenn zum Beispiel homosexuelle Menschen sich „outen“ müssen, wie heißt dann der Begriff für heterosexuelle Menschen?

Ich werde es wohl nie verstehen. Am wichtigsten ist es doch, dass man sich gegenseitig respektiert. Ich glaube, dass „Respekt“ nichts mit dem Geschlecht zu tun hat, mit dem man sich identifiziert oder irgendetwas mit der sexuellen Orientierung zu tun hat.

Ich möchte in einer Welt leben, in der jeder Mensch so sein kann, wie er möchte. Besonders möchte ich in einer Welt leben, in der wir frei lieben können, wen wir wollen. Danke schön.

誰もが自由に人を愛することのできる世界

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）

3年 高橋 紗彩

多くの人が胸に秘めている不満があると思います。色々な事情で、話したくても話せないことがありますよね？ 周囲からのプレッシャー、恥ずかしさ、それとも不安が理由でしょうか？ それを話すところ言われます。「そんなに些細なことより、世の中にはもっと深刻な問題があります」。もしくは「たしかに、残念ながらその通りかもしれません。とはいえ、何かを変えるのは難しいです」。後者について、日本語に、私たちがよく使うこのような言葉があります。「仕方ない」。

もしかしたら、あなたはその気持ちを知っているかもしれません。最後に本気で不満を言ったのは、いつですか？ ずっと悩んでいたことを全て吐き出したのは？ あなたの不安を軽視されることなく、じっくり聞いてもらえたのは？ それが、今日私がこれからやろうとしていることです。この場をお借りして、不満を言わせていただきます！

私は紗彩と申します。17歳でハンドボール部に所属しています。小学生の時、私は運動会でチームを応援する応援団長をやりたいと思っていました。しかし私はその時、男性の先生たちからこう言われました。「女の子としてやるべきではない」。それは私が女の子か男の子かということとなんの関係がありますか？ 彼らの言う「女の子」とはどうあるべきなのですか？ 私は不当な扱いを受けたと感じました。その時私は初めて“差別”を感じました。

そして私が中学生の時、社会科の先生がドイツ民主共和国の建国30周年記念でのレオニード・ブレジネフとエーリッヒ・ホーネッカーの有名な兄弟のキスの写真を見せてこう言いました。「気持ち悪い」。これって信じられないですよね？

学校に通うまでは、私は一度も差別を感じたことがありませんでした。学校で、特に女の子や女性がどれだけの差別を経験しているかに気づきました。世界のジェンダーギャップにおいて、日本が非常に低いことは周知の事実です。例えば、私の学校では女性の校長先生を見たことがありません。日本では指導的立場にある女性がそれ程多くないことは、皆さんもご存知だと思います。日本では、特に私のような若い女の子にも男の子と同じようにチャンスを与えられ、女性がリーダーシップをとるのが当たり前になって欲しいと願っています。

私の男友達が私と話している時に、「カミングアウト」という言葉を使って、自分がバイ・セクシャルであることを「公表」しました。このような考え方が存在すること自体、私には理解することができません。そもそも、なぜ性自認を秘密にしなければならないのでしょうか？ 秘密にしなければならない、もしくは「カミングアウト」しなければならないなんて誰が言い出したのでしょうか？ 今日まで続く偏見のせいでしょうか？ 例えば同性愛者が「カミングアウト」しなければならないのであれば、異性愛者の場合はどうなのでしょう？

おそらく私は一生理解できないでしょう。それでも、一番大切なことはお互いを尊重することです。「リスペクト」というのは自分が識別する性や、性的指向には関係ないと思います。

私は、誰もがなりたい自分になれる世の中であって欲しいと思います。そしてなにより、誰であろうと「好きな人」を自由に愛することができる世界に生きていきたいです。ご清聴ありがとうございました。
【本人和訳】

第 24 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 1 部本選審査用紙

氏名		部門	第 1 部	登壇順	
ローマ字					

発音・イントネーション・流暢さ	
Aussprache der Einzellaute (単音の発音)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Prosodie (イントネーション、強勢、音長)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Rhythmus (リズム)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
言葉の明瞭さ・間の取りかた・非言語表現	
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Pausen (間の取りかた)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Mimik und Gestik (視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
全体的な印象	
Textverständnis (テキストの理解度)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Kommentare (コメント)

合計 / 40

--

採点者サイン (Name) _____

第 24 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 2 部本選審査用紙

氏名		部門	第 2 部	登壇順	
ローマ字					

Aussprache und Vortrag (発音と発表)	
Aussprache und Prosodie (単音、抑揚、強勢、音長、リズム)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Textqualität (テキストの質)	
Textaufbau, Kohärenz (論理的構成・わかりやすさ・つながり)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Wortschatz: Spektrum, Angemessenheit (語彙: バリエーション・適切さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Grammatik: Spektrum, Korrektheit (文法: バリエーション・正しさ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Visuelle Unterstützung (ジェスチャー・ヴィジュアル資料)	
Gestik und Mimik (間の取り方・視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gestaltung der Visualisierungshilfe (資料のデザイン)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Einbeziehung der Visualisierungshilfe (資料の活用方法)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Inhalt (内容)	
Einleitung (Aufmerksamkeit lenkend? Übersicht gebend?) (序論: 注意を引くか・構成を明示したか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Hauptteil (Gute Beispiele? Gut gegliedert?) (本論: 例が適切か・構成は適切か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Schluss (Gut zusammengefasst? Überzeugend?) (結論: 要点がまとめられているか・説得力があるか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (Einsatz, Selbstvertrauen, Originalität) (全体的な印象: 熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Kommentare (コメント)

合計 / 60

採点者サイン (Name) _____

第 24 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 3 部本選審査用紙

氏名		部門	第 3 部	登壇順	
ローマ字					

Aussprache und Vortrag (発音と発表)	
Aussprache und Prosodie (単音、抑揚、強勢、音長、リズム)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gestik und Mimik (間の取り方・視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Textqualität (テキストの質)	
Textaufbau, Kohärenz (論理的構成・わかりやすさ・つながり)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Wortschatz: Spektrum, Angemessenheit (語彙：バリエーション・適切さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Grammatik: Spektrum, Korrektheit (文法：バリエーション・正しさ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Inhalt (内容)	
Einleitung (Aufmerksamkeit lenkend? Übersicht gebend?) (序論：注意を引くか・構成を明示したか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Hauptteil (Gute Beispiele? Gut gegliedert?) (本論：例が適切か・構成は適切か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Schluss (Gut zusammengefasst? Überzeugend?) (結論：要点がまとめられているか・説得力があるか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (Einsatz, Selbstvertrauen, Originalität) (全体的な印象：熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gespräch (質疑応答)	
Sprache (言葉は明瞭か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Inhalt (内容)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Kommentare (コメント)

合計 / 60

採点者サイン (Name) _____

MEMO

■部門について

第1部 朗読部門

課題テキストの中から一つを選んで朗読する。課題テキスト以外のものも可。

想定レベル：A0～A1。

第2部 プレゼンテーション部門

「私の夢の旅 Meine Traumreise」というテーマで、パワーポイント等を用いた5分以内のプレゼンテーションを行う。

想定レベル：A1～A2。

第3部 フリースピーチ部門

社会的な問題意識を明確にもつ任意のテーマについて5分以内のスピーチを行う。

本選ではスピーチの後、ドイツ語で質疑応答を行う（3～5分程度）。

想定レベル：B1～。

■表彰について

<個人賞>

各部門の第1～3位に賞状・副賞(順位に応じて、キーボード付き iPad、ゲーテ受講券等)を贈呈します。

賞	副賞
第1位：最優秀賞	キーボード付き iPad
第2位：優秀賞	ゲーテ受講券（通学またはオンライン）
第3位：獨協大学学長賞	電子辞書ドイツ語モデル

*iPad=Apple 社製タブレット

*ゲーテ受講券（通学またはオンライン）＝ゲーテ・インスティトゥートが開講するドイツ語講座

<審査員特別賞>

本選出場者の中から、第1～3位受賞者を除き、特に敢闘した1名に賞状・副賞を授与します。

<学校賞>

予選参加・本選での結果を考慮し、1校に賞状・副賞を授与します。

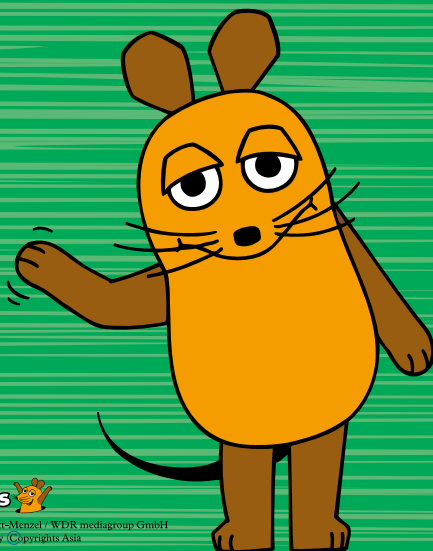
<公募制推薦入試出願資格の授与>

第1～3部予選通過者に、獨協大学外国語学部ドイツ語学科の公募制推薦入試の出願資格を授与します。

第1部 朗読部門	第1位：最優秀賞	
	第2位：優秀賞	
	第3位：獨協大学学長賞	
第2部 プレゼンテーション部門	第1位：最優秀賞	
	第2位：優秀賞	
	第3位：獨協大学学長賞	
第3部 フリースピーチ部門	第1位：最優秀賞	
	第2位：優秀賞	
	第3位：獨協大学学長賞	
審査員特別賞		
学校賞		

《獨協大学公式キャラクター》

「マウス」 LINEスタンプ 販売開始！



Maus

© I. Schmitt-Moncl / VDR medien group GmbH
Licensed by Copyrights Asia

全24種



- 2022年7月7日(木) 販売開始！
- 価格：120円 または 50LINEコイン



LINE STOREもしくは
LINEアプリ内のスタンプショップで、
「獨協大学」または「公式マウス」と検索

獨協大学外国語学部ドイツ語学科の紹介

「ドッキョウのドは、ドイツのド」。獨協大学の前身は、今から139年前、1883年に創設された「獨逸学協会学校」。ドイツ語学科は、いわば獨協大学の核となる学科です。1 学年あたりの入学定員120 名、教員 50 名以上を擁し、ドイツ語学科としては、日本国内最大規模でもあります。

実践的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、言語・文学・思想・芸術・文化・歴史・政治・経済などさまざまな側面から、ドイツ語圏の文化や社会について学びます。もちろん、環境問題、移民問題などのアクチュアルなテーマについても講義やゼミで扱います。

「ドイツのことは知らない…」「ドイツ語なんてできない…」そんな人も、安心してください。

1 年次には「ドイツ語圏入門」という講義を通し、ドイツ語圏に関する基礎的な事柄を学びます。ドイツ語の授業は週5回（各 100 分）あり、そのうち2 回はネイティブスピーカーの先生のもとで実践的なドイツ語を学びます。さらに実践力を高められるように、ドイツでの語学研修はもとより、ドイツでのインターンシップ（企業での研修）も実施しています。大学に入ってからドイツ語を学び始め、2 年で独検（ドイツ語技能検定試験）の準 1 級レベルに合格したり、卒業時に通訳ガイド試験に合格したりする学生もいます。

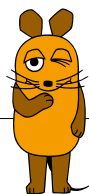
授業のほかにも、ネイティブスピーカーの先生と気軽に話せる「チャットルーム」や、大学院生による「ドイツ語何でも相談」、またドイツ語の資格を取るための講座や模擬試験などもあります。さらに、雑誌やニュースでドイツ語に浸れる Deutsche Ecke という部屋では留学生との交流ができ、ドイツ語学習の環境が整っています。

2 年次には「基礎演習」という科目があり、口頭で発表したり、論文を書いたりするのに必要な基本的なスキルを身につけます。

3 年次からは、本格的な専門の授業が始まります。ドイツ語圏の文化や社会について、これだけ多様な視点から学べるのは獨協大学だけです！ 問題が与えられるのを待っている受け身の学生ではなく、自分で問題を見つけて、多角的な視野から解決の糸口を探る、そんな積極的な学生を育てたいと思っています。

ぜひ一緒に、獨協大学外国語学部ドイツ語学科で学びましょう！

Wir freuen uns, Sie hier an der Dokkyo Universität begrüßen zu können!



Maus™

オレンジ色の体に茶色の耳、大きな目が愛らしいMaus™(マウス™)は、1971年にドイツの子供向け番組から誕生したキャラクターです。

獨協大学のマスコットとして、本学のプロモーションに一役買ってくれています。

＜獨協大学ドイツ語スピーチコンテスト事務局＞

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 TEL:048-946-1715 mail:kouhou@stf.dokkyo.ac.jp